

社会学基礎論

Foundations of Sociology

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB041
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	他研究科生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

大学院レベルでの社会学的研究に必要な理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究を理論的に定位することができるようにする。あわせて研究倫理についても研修する。

The objective of this course is to introduce students to basic understanding of sociological theories required at the graduate level. It enables those who address empirical research, as well as those interested in theoretical issues, to consider individual study theoretically. The course also gives instruction on research ethics.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18世紀末から19世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学(サンシモン、コント、スペンサー)の概要を理解したうえで、闘争理論(マルクス)、社会学の実証主義(デュルケム)、相互作用論(ジンメル)、理解社会学(ヴェーバー)など19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の計量研究の3つの系譜によって整理する。

Sociology was shaped during the late 18th and early 19th centuries with bourgeois and industrial revolutions as backdrop and has prominently developed in the 20th century in the US. This course introduces students to sociological thoughts in the early days (Saint-Simon, August Comte, and Herbert Spencer), followed by conflict theory (Karl Marx), interactionism (Georg Simmel), and interpretive sociology (Max Weber) developed during the 19th and early 20th centuries in Europe, and describes trends of American sociology in the 20th century focusing on the Chicago School, structural functionalism, and the Columbia School of Quantitative Sociology; all three are the starting points of contemporary sociology.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 草創期の社会学: サンシモン、コント、スペンサー
- [3]: 闘争理論の源流: カール・マルクス
- [4]: 社会学の実証主義: エミール・デュルケム
- [5]: 相互作用と社会化の諸形式: ゲオルク・ジンメル
- [6]: 討論: マルクス、デュルケム、ジンメル
- [7]: 都市と社会改革: ロバート・パークとシカゴ学派
- [8]: 理解社会学: マックス・ヴェーバー
- [9]: 構造機能主義(1): タルコット・パーソンズ
- [10]: 討論: シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ
- [11]: 構造機能主義(2): マートン(スメルサー)

【12】:計量社会学:ラザースフェルドとコロンビア学派

【13】:批判理論:実証主義論争

【14】:討論:マートン、ラザースフェルド、アドルノ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題を授業期間中 10 回課す。また、討論の回までにそれまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておくこと。授業期間中に、JSPS 研究倫理 e ラーニングコースを修了すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート 10 回分:70% 授業へのリアクション:30%

eL CoRE (JSPS 研究倫理 e ラーニングコース)を修了していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

授業時にレジユメを配布する。リーディング・アサインメントの教材は Canvas LMS 上でも利用できる。

参考文献 / Readings

C.W.ミルズ『社会学的想像力』筑摩書房 2017年 4480097813

マルクス＝エンゲルス『共産党宣言 共産主義の原理』大月書店 1952年

デュルケム『社会学的方法の規準』岩波書店 1978年 4003421434

松本康編『都市社会学セレクション 1 近代アーバニズム』日本評論社 2011年 453558592

マックス・ヴェーバー『社会学の根本概念』岩波書店 1972年 4003420969

タルコット・パーソンズ『社会体系論』青木書店 1974年 425074017

ロバート・K・マートン『社会理論と社会構造』みすず書房 1961年 4622017059

8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』芦書房、1987年

9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』勁草書房、1991年

10. テオドール・W・アドルノ(著), カール・ポパー『社会科学の論理 新装版: ドイツ社会学における実証主義論争』

翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第1回目に指示する。

その他 / Others

小レポート及び eL CoRE 修了証の提出は原則として Canvas LMS を使用する。

現代社会学理論

Modern Sociological Theory
社会意識を読み解くための理論

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB051
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は社会思想史のテキストを読んでいき、近代的な社会理論の背景となる基本的な視座を学んでいく。

発表は、原則的に文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読
- 【13】: 文献講読
- 【14】: 文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と討論:100%

テキスト / Textbooks

城塚登 『社会思想史講義』 筑摩書房 2024 4480511997

城塚登 『近代社会思想史』 東京大学出版会 1960 9784130120074

上野修 『哲学者たちのワンダーランド [改版]: デカルト・スピノザ・ホッブズ・ライプニッツ』 NHK 出版 2024
9784140912911

國分功一郎 『近代政治哲学 ——自然・主権・行政』 筑摩書房 2015 4480068201

重田園江 『社会契約論 ——ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』 筑摩書房 2013 4480067426

上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。また、テキストに付随し、関連した文献を読むこともある。

参考文献 / Readings

奥村隆編 『戦後日本の社会意識論 -- ある社会学的想像力の系譜』 有斐閣 2023 9784641174900

相互行為論

Social Interactionl Theory

相互行為論の基本的な考え方・分析の態度

是永 論 (KORENAGA RON)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB052
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解し、事例分析の能力を習得する。

This course aims to study social interaction in sociology and aquire skills to analyse data.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、従来の社会学におけるアプローチに加えて、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロジーの視点から、相互行為の分析方法について検討する。データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

In addition to conventional sociological approaches, this course will accord students the methods to analyse social interaction from the viewpoint of E.Goffman's works and ethnomethodology. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献の報告・事例の検討
- 【3】: 文献の報告・事例の検討
- 【4】: 文献の報告・事例の検討
- 【5】: 文献の報告・事例の検討
- 【6】: 文献の報告・事例の検討
- 【7】: 文献の報告・事例の検討
- 【8】: データ・セッション
- 【9】: データ・セッション
- 【10】: データ・セッション
- 【11】: データ・セッション
- 【12】: データ・セッション
- 【13】: データ・セッション
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容(事例分析にかかわる高水準の報告を含む):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山崎敬一ほか編 『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』 新曜社 2023 9784788517943

授業時に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会学の基礎的な知識

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材の共有や資料提示等はすべてオンラインでおこなうため、スクリーンに投映出来る機能をもったパソコンを準備してください。

その他 / Others

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

社会階層論

Social Stratification
格差と不平等の社会学

永吉 希久子(NAGAYOSHI KIKUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB053
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、出身階層やジェンダー、人種、国籍などによる格差がどのように生じているのかについて考えるための土台となる知識を身につけ、議論できるようになることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

This seminar aims to provide students with foundational knowledge for thinking about and discussing how inequality arises based on class, gender, race/ethnicity, and nationality through the Japanese and English literature on the study of social stratification. Students will be required to review the assigned literature and make a presentation with comments. Following the report by the student in charge, all students will engage in a discussion.

授業の内容 / Course Contents

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。

In the first session of the class, students will be assigned a literature review. The student in charge of the assigned session will review a specified range of texts or a selected Japanese/English article on social stratification and report it in class. Through these reports, students are expected to acquire knowledge of the basic concepts and theoretical frameworks of social stratification and inequality research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション・分担の割り当て
- 【2】: 文献講読・ディスカッション
- 【3】: 文献講読・ディスカッション
- 【4】: 文献講読・ディスカッション
- 【5】: 文献講読・ディスカッション
- 【6】: 文献講読・ディスカッション
- 【7】: 文献講読・ディスカッション
- 【8】: 文献講読・ディスカッション
- 【9】: 文献講読・ディスカッション
- 【10】: 文献講読・ディスカッション
- 【11】: 文献講読・ディスカッション
- 【12】: 文献講読・ディスカッション
- 【13】: 文献講読・ディスカッション

【14】: 文献講読・ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジュメを用意する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回での報告:60% 授業への貢献(発言など):20% コメントシート:20%

テキスト / Textbooks

Grusky, D. B. Social Stratification: Class, Race and Gender in Sociological Perspective, Fourth Edition Routledge
2014 9780813346717

初回の授業で案内する

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業で扱う論文では高度な統計的手法が用いられている可能性があるが、そうした分析手法に関する予備的知識は要しない。

その他 / Others

初回到授業の方針を説明し、割り当ても行うので、履修希望者は必ず出席すること。

ジェンダーとセクシュアリティ

Gender and Sexuality

ジェンダー／セクシュアリティの社会学

杉浦 郁子(SUGIURA IKUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB054
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会学におけるジェンダー／セクシュアリティ研究の基本的な考え方、方法、着眼点などを学び、それらを修士論文に活かせるようになる。

Students will learn the fundamental concepts, methods, and perspectives of gender and sexuality studies in sociology, with the aim of applying this knowledge to their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

文献講読の授業である。ジェンダーとセクシュアリティに関する社会学的な文献を取りあげる。

Students will engage in reading and discussing basic studies on the sociology of gender and sexuality.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め
- 【2】:受講者の問題関心についての報告
- 【3】:文献講読・ディスカッション①
- 【4】:文献講読・ディスカッション②
- 【5】:文献講読・ディスカッション③
- 【6】:文献講読・ディスカッション④
- 【7】:文献講読・ディスカッション⑤
- 【8】:文献講読・ディスカッション⑥
- 【9】:文献講読・ディスカッション⑦
- 【10】:文献講読・ディスカッション⑧
- 【11】:文献講読・ディスカッション⑨
- 【12】:文献講読・ディスカッション⑩
- 【13】:文献講読・ディスカッション⑪
- 【14】:文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末

その他 / Others

初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、購読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

人種とエスニシティ

Race and Ethnicity

人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学)理論を学ぶ

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB055
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の修士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。

Students will deepen their understanding of arguments about human race and ethnicity by analyzing specific cases and studying textbooks. Students will aim to discover perspective useful for their master theses.

授業の内容 / Course Contents

履修者の修士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。

Professor will select suitable and enough theses depending on students' master thesis subjects and number of students. Students will dig deeper into major sociology and anthropology theories surrounding globalization.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 1
- 【3】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 2
- 【4】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 3
- 【5】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 4
- 【6】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 5
- 【7】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 6
- 【8】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 7
- 【9】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 8
- 【10】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 9
- 【11】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 10
- 【12】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 11
- 【13】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 12
- 【14】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 / Readings

適宜、授業のなかで提示していく。

社会老年学

Social Gerontology

安藤 孝敏 (ANDO TAKATOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB056
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、自分の研究課題や問題意識と関連させて、社会老年学とはどのような学問であるのかを理解する。

Students will focus on understanding senior citizens living in aging society. Students will understand social gerontology by linking it with their research subjects and issue awareness.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジюмеなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

In this class, students will select and present articles that they are interested in from the latest literature on social gerontology, and proceed in a format in which they discuss the content. Papers to be presented will be distributed in advance, and a resume summarizing the contents of the papers will be prepared on the day. The literature to be presented will be decided in consultation with the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献の発表とディスカッション
- 【3】: 文献の発表とディスカッション
- 【4】: 文献の発表とディスカッション
- 【5】: 文献の発表とディスカッション
- 【6】: 文献の発表とディスカッション
- 【7】: 文献の発表とディスカッション
- 【8】: 文献の発表とディスカッション
- 【9】: 文献の発表とディスカッション
- 【10】: 文献の発表とディスカッション
- 【11】: 文献の発表とディスカッション
- 【12】: 文献の発表とディスカッション
- 【13】: 文献の発表とディスカッション
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

ディスカッションでは積極的な参加が期待される。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理してくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表資料の準備と発表内容:60% ディスカッションへの参加度:40%

テキスト / Textbooks

使用しない。関係資料など適宜、提供する。

参考文献 / Readings

授業内で適時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に PC を持参すること。

家族社会学

Sociology of Family

「家族の多様化」を考える。(Considering the "Diversification of Family".)

近兼 路子 (CHIKAKANE MICHIKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB057
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論を習得することを目標とする。

Through a review and discussion of national and international literature on families and intimate relationships, students will learn theories for understanding and analyzing the nature of the "Diversification of Family".

授業の内容 / Course Contents

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

In recent years, "Diversification of Family" has attracted much attention, particularly in Europe and the United States. Theoretical studies to grasp the current situation have flourished in domestic and international family studies. In addition, the field of contemporary family studies has begun to actively introduce knowledge from other fields, such as feminism, queer theory, and political philosophy. It is difficult to understand contemporary family studies without being aware of these trends.

In this lecture, students will learn about these recent domestic and international trends in family research, with a specific focus on reviewing and discussing the literature on research trends and qualitative research on contemporary family situations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 文献の選定と割り当て
- 【2】: 文献講読とディスカッション 1
- 【3】: 文献講読とディスカッション 2
- 【4】: 文献講読とディスカッション 3
- 【5】: 文献講読とディスカッション 4
- 【6】: 文献講読とディスカッション 5
- 【7】: 文献講読とディスカッション 6
- 【8】: 文献講読とディスカッション 7
- 【9】: 文献講読とディスカッション 8
- 【10】: 文献講読とディスカッション 9

- 【11】: 文献講読とディスカッション 10
- 【12】: 文献講読とディスカッション 11
- 【13】: 文献講読とディスカッション 12
- 【14】: 文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジюмеを作成し、事前に共有すること。各回の講義で取り上げる文献は、必ず報告者以外も読み、質問、コメントなどを整理した上で授業に参加すること(2時間)。また、授業での議論を踏まえ、関連文献を読み、知見を深めること(2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:50% 出席、議論の参加:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

Deborah Chambers & Pablo Gracia A Sociology of Family Life Polity 2021 9781509541355

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学

Sociology of Religion

宗教社会学の入門(*なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学[この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)

小池 靖(KOIKE YASUSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB058
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。

Through a reading of the basic literature of contemporary sociology of religion, the course will examine the present state of religion and society.

授業の内容 / Course Contents

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということを、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

In pioneering sociology, religion represented a vanishing pre-modern order and was therefore central to sociological concerns. In this class, as a foundational course, we will examine how religion in contemporary society is viewed sociologically through readings and discussions. There will also be times to view video materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 学生による発表1
- 【3】: 学生による発表2
- 【4】: 学生による発表3
- 【5】: 映像資料1
- 【6】: 輪読1
- 【7】: 輪読2
- 【8】: 輪読3
- 【9】: 映像資料2
- 【10】: 輪読4
- 【11】: 輪読5
- 【12】: 輪読6
- 【13】: 映像資料3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
----	--	---------------	---	---------------	---

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献の読み込み等。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% 発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物):50%

テキスト / Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

Adam Possamai The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism Palgrave Macmillan 2017

Adam Possamai Sociology of Religion for Generations X and Y Routledge 2009

メレディス・B・マクガイア 『宗教社会学:宗教と社会のダイナミックス』 明石書店 2008

その他 / Others

その他の諸注意:

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

政治社会学

Political Sociology

食と農の社会運動:北東アジアの中で考える

安藤 丈将 (ANDO TAKEMASA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB059
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、食と農の社会運動について学びます。近年、食べ物の生産、流通、消費のあり方を改善させることで、社会の変革を目指す活動に研究者の注目が集まるようになりました。具体的には、CSA(地域支援型農業)、ファーマーズ・マーケット、コミュニティ・ファーム、生協等の食と農に関わる地域を中心とする活動は、今日では世界各地に広がっています。

これらの活動はいかなる文脈で出現し、食・農と社会変革をどう接続し、いかなる影響を及ぼしているのでしょうか。この授業では、社会運動論やフード・スタディーズの成果をもとにしながら、これらの問いを考察します。特に授業の後半では、北東アジアの文脈に即しながら、食と農の社会運動をより身近な事柄として理解するように努めます。

This course will study social movements related to food and agriculture. In recent years, researchers have increasingly focused on activities aimed at transforming society by improving the production, distribution, and consumption of food. Specifically, community-based initiatives related to food and agriculture, such as Community Supported Agriculture (CSA), farmers' markets, community farms, and food cooperatives, have spread worldwide.

Why have these activities emerged in specific contexts, how do they connect food and agriculture to social change, and what impacts do they have? Drawing on the findings of social movement theories and food studies, this course will explore these questions. In the latter half of the course, we will focus on the context of Northeast Asia to understand social movements in food and agriculture as more relatable and tangible issues to us.

授業の内容 / Course Contents

授業では、食と農の社会運動を検討していきます。前半はこのテーマに関する理論的な研究、後半は北東アジアの各地域(主に日本、台湾、香港)の事例を扱います。各回の授業では、書籍の1章、または論文1本程度の共通テキスト(主に日本語、時に英語)を設定し、内容を確認しながら、受講生と議論をしていきます。

This course will examine social movements related to food and agriculture. In the first half, we will focus on theoretical studies on this theme. In the second half, we will explore case studies from various regions in Northeast Asia, primarily Japan, Taiwan, and Hong Kong. Each session will feature a common text, such as a chapter from a book or an academic article (mainly in Japanese, occasionally in English), which we will review and discuss with the participants.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 食と農の資本主義化
- 【3】: フード・アクティビズムと都市の再生
- 【4】: フード・シティズンと「総百姓モデル」

- 【5】: 農をケアワークとして考える
- 【6】: ネオリベラリズムとの関連
- 【7】: 食料主権とトランスナショナルな農民運動
- 【8】: 台湾①: 開発と社区総体营造
- 【9】: 台湾②: 土地正義から農芸復興へ
- 【10】: 香港①: 高速鉄道と有機農業
- 【11】: 香港②: 本土主義と農(の不在)
- 【12】: 日本①: 産消提携と公害問題
- 【13】: 日本②: 学校給食と権利としての食
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストのレジユメ担当者は、箇所の内容を講読し、レジユメ資料を作成します。それ以外の受講生も、テキスト該当箇所を講読し、重要な論点をおさえたいうで授業に臨むようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の議論の参加:50% レジユメ発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

安藤丈将 『香港を耕す一農による自由と民主化運動』 岩波書店 2024年

産業・労働社会学

Sociology of Work

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB060
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近年の産業・労働社会学分野における諸研究で展開されている諸議論を検討し、理解する。

Students will review and understand the latest studies as well as classical ones of the industrial and labor sociology.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働社会学において議論されている諸テーマ、すなわち雇用形態・就業形態の多様化(非典型雇用、雇用関係によらない働き方(独立請負、フリーランスやギグワークなど))、労働市場における流動性と転職、働き方における柔軟性、長時間労働とワーク・ライフ・バランス問題、仕事の自律性と裁量労働、成果主義とモチベーション、サービス労働、感情労働、仕事におけるジェンダー不平等問題、若者の労働志向、外国人労働者、非正規労働者の労働運動、社会運動ユニオニズムなどについて議論し、理解を深める。授業では、これらのテーマに関する諸文献を講読し、議論する。講読文献は、初回で参加者と相談して決める。

Studies of the industrial and labor sociology have dealt with many topics, for example, motivation to work, autonomy and control at work, internal labor market system, industrial relations, emotional labor, irregular types of employment, performance-based pay system, flexible work system, overwork problem and work-life balance, gender inequality at work, foreign workers problem, social movement unionism and so on. Students will read and discuss studies which examines some of above-mentioned topics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction: 講読文献の紹介
- 【2】: 文献講読及びディスカッション
- 【3】: 文献講読及びディスカッション
- 【4】: 文献講読及びディスカッション
- 【5】: 文献講読及びディスカッション
- 【6】: 文献講読及びディスカッション
- 【7】: 文献講読及びディスカッション
- 【8】: 文献講読及びディスカッション
- 【9】: 文献講読及びディスカッション
- 【10】: 文献講読及びディスカッション
- 【11】: 文献講読及びディスカッション
- 【12】: 受講生の研究発表
- 【13】: 受講生の研究発表
- 【14】: 講読諸文献に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 授業内発表:50% 研究発表:20%

テキスト / Textbooks

初回で提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市社会学

Urban Sociology

高木 恒一 (TAKAGI KOICHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB061
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学部での社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する基本的な視座・理論・方法についての知識を得ること。

The purpose of this course is to introduce key concepts of urban sociology and to examine contemporary urban issues.

授業の内容 / Course Contents

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

The course will discuss basic concepts of urban sociology to understand urban society and urban life. Also, this course will read articles related to contemporary urban issues.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 講義(1) シカゴ学派の視点その1
- [3]: 講義(2) シカゴ学派の視点その2
- [4]: 講義(3) シカゴ学派の方法
- [5]: 文献講読とディスカッション(1)
- [6]: 文献講読とディスカッション(2)
- [7]: 文献講読とディスカッション(3)
- [8]: 講義(4) 新都市社会学の視点
- [9]: 講義(5) 新都市社会学以降の展開
- [10]: 文献講読とディスカッション(4)
- [11]: 文献講読とディスカッション(5)
- [12]: 文献講読とディスカッション(6)
- [13]: 講義(6) 日本の都市社会学の展開
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的参加して、発言することを強く求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況および中間レポートの総合評価:100%

テキスト / Textbooks

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 / Readings

松本康編『都市社会学・入門(改訂版)』有斐閣 2022 9784641220157

環境社会学

Environmental Sociology
環境社会学の理論と実践

関 礼子 (SEKI REIKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB062
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境社会学の基礎的な理論を学ぶとともに、フィールドからの理論形成と問題解決への貢献という姿勢について理解する。

In this course, graduate students will learn the basic theories of environmental sociology and understand the attitude of theory making from the field survey to contribute to solving problems.

授業の内容 / Course Contents

社会問題としての環境問題は多岐にわたる。環境問題のメカニズムや問題構造を捉え、問題解決の方向性を導き出す環境社会学の視点を学ぶ。

Environmental issues as the social problem range widely. In this course, graduate student learn the perspective of environmental sociology, which captures the mechanisms and the structure of environmental problems and derives the direction of problem solving.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 環境への着目

環境問題の特徴とその変化を踏まえて、環境社会学を考える。

【3】: 「歴史」への視点

『公害・労災・職業病年表』が現代に示唆することは何か。

そこに至る経緯を把握することの意味は何か。

【4】: 被害と加害への視点

被害と加害のメカニズムを総体として把握する(加害ー被害)論について考える。

【5】: 「公共性」とは何か

開発と保護をめぐって、何が全体の利益とされてきたのか。

その利益は歴史の審判に耐えうるか。

【6】: 応用①

水俣病、企業の公共性、国の規制権限、学問の独立性・自立性、科学技術社会論など。

【7】: 応用②

尾瀬、自然保護、山岳観光道路、オーバーツーリズムなど。

【8】: 生きものと暮らし

生業、マイナー・サブシステム、資源保全、獣害、音への感性などから生きものと暮らしの関係とその変化を捉える。

【9】: かかわりとなわばり

場所や自然資源の占有・所有のルール、自治について考える。

【10】:歴史的環境の保全

なにが歴史的環境であるのか。三つの「村」における保護・保全のかたちを考える。

【11】:風土と景観

地名、在地リスク回避、入浜権、ソフトレジスタンス、自然の本源的優越などの概念から考える。

【12】:伝統と生活文化

伝統や地域の歴史はなぜ守る対象になるのか。

【13】:なぜ戦争は最大の環境破壊か

リスクとしての基地をめぐる諸問題を考える。

【14】:まとめとディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、レジュメ作成等。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と報告:50% ディスカッション:50%

修士課程と博士課程の学生が受講できるが、博士課程の学生には高い水準の理解を求める。

テキスト / Textbooks

ガイダンス、各回ごとに指示する。

参考文献 / Readings

飯島伸子 『公害・労災・職業病年表』 すいれん舎 2007 9784903763125

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会学的な思考能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

メディア社会学

Sociology of Media

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB063
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

メディア・オーディエンス論の研究動向について理解するとともに、メディア社会学の基礎的知識の習得をめざす。
Students will understand research trends of media audience theory while acquiring basic knowledge about media sociology.

授業の内容 / Course Contents

近年、テクノロジーの発達により、メディアは高度に発展し、人々の生活の多方面に深く関わっている。こうした中で、メディア・オーディエンスについて、これまでどのような研究がなされてきたのであろうか。この授業では、メディア・オーディエンス研究についてのこれまでの研究成果を俯瞰し、そこで用いられた基本的な概念の習得を目指す。

本授業では、テキストの精読を通して、こうしたメディア・オーディエンス論の研究動向について学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いていってほしい。

In recent years, media has developed rapidly thanks to technological progress, spreading its influence in various aspects of people's lives. What researches have been conducted on media audience amidst these phenomena? In this class, students will gain bird-eye view of media audience research findings until now. Students will acquire basic concepts used in these studies.

In this class, students will learn about media audience research trends by reading textbooks. Through these, students will build the foundation of the future researches.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(1)
- 【3】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(2)
- 【4】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(3)
- 【5】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(4)
- 【6】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(5)
- 【7】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(6)
- 【8】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(7)
- 【9】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(8)
- 【10】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(9)
- 【11】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(10)
- 【12】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(11)
- 【13】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(12)
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:60% 授業内の討論:40%

テキスト / Textbooks

李光鎬・渋谷明子編 『メディア・オーディエンスの社会心理学 改訂版』 ミネルヴァ書房 2021 9784788517219

参考文献 / Readings**その他 / Others**

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

文化人類学

Cultural Anthropology
文化人類学理論史研究

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB064
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1860年代から2000年代までに至る文化人類学の理論史を概観し、人類学理論のパラダイム転換の裏にある思想・視点を明らかにする。

To clarify and understand the overview of the theoretical history of cultural anthropology from the 1860s to the 2000s.

授業の内容 / Course Contents

19世紀後半にヨーロッパ・アメリカで生まれた人類学は、他者を理解することをめぐって数々のパラダイム転換を遂げた。そのパラダイム転換の歴史的軌跡は、進歩史観と博物学的研究を中心とした1860/70年代から1920/30年代までの第1期、フィールドワークに基づきコミュニティ内部の有機的統合を模索した1920/30年代から1970/80年までの第2期、民族誌記述の政治性を批判し、文化的統合性よりも流動性と生成を焦点化した1980/90年代の第3期、さらに民族誌批判を乗り越えて新たな人類学的視点を提示しようとする1990年代以降の第4期に大きく分けることができる。本講義では、この4期の歴史展開における思想的背景をあぶりだし、今日の文化人類学の歴史的な位置づけを明らかにする。(授業計画は、授業の進捗に応じて変更することがあります)

Born in Europe and the United States in the late 19th century, anthropology has undergone several paradigm-shifts. In this lecture, the historical trajectory of the paradigm-shifts divided into four periods; the first period from the 1860s / 70s to the 1920s / 30s, the heyday of the evolutionism and the natural history, the second period from the 1920s / 30s to the 1970s / 80s, which sought the organic integration based on community fieldworks. the se1920 / which sought organic integration within the community based on fieldwork. The third period of the 1980s / 90s, which criticized the politics of ethnographic writing and focused on fluidity and generation rather than cultural integrity. The fourth period since the 1990s, trying to overcome criticism of writing culture shock and present a new anthropological perspective. In this lecture, we will discuss the ideological background of the historical development of these four periods. In addition, it also explores the historical location of cultural anthropology today. (The plan will be changed depending on the course progression.)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——講義の構造
- 【2】: 一卵性双生児としての社会学と人類学——「文明」と「未開」への問
- 【3】: 文化的多様性と近代性を結びつける——人類学における進化
- 【4】: 人類学における「機能」という考え方(1)——共同体研究
- 【5】: 人類学における「機能」という考え方(2)——「科学」としての人類学
- 【6】: 人類学における「構造」概念(1)——主体の消滅
- 【7】: 人類学における「構造」概念(2)——構造から実践へ
- 【8】: 人類学における「文化」の焦点化——アメリカ人類学と文化の解釈

- 【9】: 人類学における政治と詩——ライティングカルチャーショック
- 【10】: 「私」の民族誌——実験的民族誌
- 【11】: 「世界」のなかの民族誌——世界システムと多現場民族誌
- 【12】: ラトゥールとアクターネットワーク理論
- 【13】: 「存在論的転換」をとりあえず理解する
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド ^(パワポ等) の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で指示する参考文献に目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:100%

テキスト / Textbooks

とくになし。

参考文献 / Readings

竹沢尚一郎 『人類学的思考の歴史』 世界思想社 2007 9784790712695
 太田好信・浜本満 『メイキング文化人類学』 世界思想社 2005 4790711021
 ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953
 松村 圭一郎他 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331
 前川啓治他 『21世紀の文化人類学』 新曜社 2018 9784788515826
 その他の参考文献については、各回の授業において指示する。

カルチュラルスタディーズ

Cultural Studies

文化に対する批判的研究と、実践のために

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB065
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文化研究(カルチュラルスタディーズ)に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための基礎的視座を得ること。

This course provides an opportunity to study basic theories and have practical experiences of Cultural Studies at postgraduate level.

授業の内容 / Course Contents

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- field research, practical projects
- research presentations

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、研究紹介
- 【2】:フィールドワーク準備
- 【3】:文献講読・ディスカッション
- 【4】:文献講読・ディスカッション
- 【5】:文献講読・ディスカッション
- 【6】:フィールドワーク/プロジェクト
- 【7】:文献講読・ディスカッション
- 【8】:文献講読・ディスカッション
- 【9】:文献講読・ディスカッション
- 【10】:フィールドワーク/プロジェクト
- 【11】:研究発表、グループメンタリング
- 【12】:研究発表、グループメンタリング
- 【13】:研究発表、グループメンタリング
- 【14】:グループ・プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動にかんして、自ら調査をおこなうことで、授業内容への理解を深めるとともに、自身の研究課題との関連性を見出していくことが期待される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加(文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか):100%

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

科学技術社会論

Science and Technology Studies

綾部 広則 (AYABE HIRONORI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB066
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

科学技術と社会を考えるための基本的知識を身につける。

The purpose of this course is to acquire basic knowledge for a better understanding of the relationship between science, technology and society.

授業の内容 / Course Contents

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定(文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める)。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、安心して受講してください。

This course will consist of lectures as well as reading of basic texts on science and technology and society(STS).

Depending on the number of students, the first few lectures will be an overview of the STS, and the remainder of the time will be spent reading the basic texts (the texts to be read will be decided at the orientation). Please note that, although the course is called “science and technology,” no prior knowledge of natural science or engineering is required.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:科学技術社会論とは何か(1)
- 【3】:科学技術社会論とは何か(2)
- 【4】:科学技術社会論とは何か(3)
- 【5】:科学技術社会論とは何か(4)
- 【6】:科学技術社会論とは何か(5)
- 【7】:文献講読(1)
- 【8】:文献講読(2)
- 【9】:文献講読(3)
- 【10】:文献講読(4)
- 【11】:文献講読(5)
- 【12】:文献講読(6)
- 【13】:文献講読(7)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

その回で扱う文献については、事前に熟読しレジュメを作成すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献度:50% 割り当てられた文献に関する報告:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

塚原東吾他編著 『よくわかる現代科学技術史・STS』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154

調査計画法

Research Design

量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性

石田 賢示 (ISHIDA KENJI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB071
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようにする。

The purpose of this class is to provide students with an understanding of the basics of social research so that they can apply them in actual research.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

After learning the basic concepts of social research and the characteristics of various research methods, students will acquire methods for setting research questions, constructing hypotheses, planning and designing surveys, collecting, organizing, and analyzing data, and reporting survey results. Students will also learn about research ethics. The goal is for students to be able to plan and conduct appropriate surveys, taking into account existing theories and previous research. In addition, students will learn how to design a research plan that integrates quantitative and qualitative research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:社会調査の種類
- 【3】:社会学における理論と検証
- 【4】:社会調査の倫理と今日的課題
- 【5】:量的調査と質的調査の混合アプローチ
- 【6】:調査計画(1):問題関心と先行研究レビュー
- 【7】:調査計画(2):リサーチクエスションと仮説構築
- 【8】:調査票調査(1):調査票の設計とワーディング
- 【9】:調査票調査(2):調査対象とサンプリング
- 【10】:調査票調査(3):データの収集とコーディング・クリーニング
- 【11】:調査票調査(4):データ分析と結果の解釈
- 【12】:ヒアリング調査(1):調査項目の整理、対象者の選定と関係形成
- 【13】:ヒアリング調査(2):データ収集と分析結果の整理
- 【14】:まとめ:調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をとおして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内提出物:40% 講義への参加度:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

森岡清志編 『ガイドブック社会調査第2版』 日本評論社 2007 9784535582460
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 上』 東京大学出版会 2015 9784130520263
 佐藤郁哉 『社会調査の考え方 下』 東京大学出版会 2015 9784130520270
 松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 2021 9784621306314
 盛山和夫 『社会調査法入門』 有斐閣 2004 9784641183056
 轟亮・杉野勇・平沢和司編 『入門・社会調査法[第4版]:2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社 2021
 9784589041418

参考文献は授業時に提示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インターネットにつながるノートPCを用意してください。

その他 / Others

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識(クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など)がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

授業は講師作成のスライド資料に沿って進めるが、一部演習を伴う。
 詳細は初回授業時に説明するため、履修希望者は必ず出席すること。

量的分析法

Statistical Analysis
中級多変量解析

三輪 哲 (MIWA SATOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB073
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学での応用で利活用される、中級レベルの多変量解析技法を学ぶ。

To Learn intermediate-level multivariate analysis techniques used in quantitative sociology.

授業の内容 / Course Contents

社会統計学や多変量解析の基礎を学んでいる事を前提に、それらの手法、とりわけ中級レベルのモデルについて、学術論文を理解することや、適用して自身の論文を執筆するための知識・技能を身に付ける事を目的とする。社会学的な立場に基づいて、データの収集やハンドリングから、解析そして解釈までを学ぶ。統計ソフトウェア SPSS を使用した実習もおこなう。

Assuming that graduate students have learned the basics of social statistics and multivariate analysis, you will need the knowledge and knowledge to understand academic papers and apply those methods, especially intermediate-level models, to write your own papers. The purpose is to acquire skills. Learn everything from data collection and handling to analysis and interpretation based on a sociological standpoint. Students will also practice using the statistical software SPSS.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 量的分析の応用のために
- 【2】: 多項ロジットと順序ロジット
- 【3】: ログリニア分析(1)
- 【4】: ログリニア分析(2)
- 【5】: 生存時間分析(1)
- 【6】: 生存時間分析(2)
- 【7】: マルチレベル分析(1)
- 【8】: マルチレベル分析(2)
- 【9】: 探索的因子分析と確証的因子分析
- 【10】: 構造方程式モデリング(1)
- 【11】: 構造方程式モデリング(2)
- 【12】: 潜在クラス分析(1)
- 【13】: 潜在クラス分析(2)
- 【14】: 傾向スコアによる因果推論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所での予習と、前回内容に基づく課題による復習をすることが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:36% 課題:39% 最終レポート割合::25%

テキスト / Textbooks

三輪哲・林雄亮 『SPSSによる応用多変量解析』 オーム社 2014 4274050114

参考文献 / Readings

康永秀生ほか 『できる! 傾向スコア分析: SPSS・Stata・R を用いた必勝マニュアル』 金原出版 2017 4307004841

質的分析法

Qualitative Research

小林 多寿子(KOBAYASHI TAZUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB075
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をとおして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。

Students will trace qualitative researches to understand overall qualitative sociology. To acquire basic and practical qualitative research skills, students will learn its methods and analyses through specific case studies.

授業の内容 / Course Contents

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をとおして多様な質的方法の実際について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理を学ぶことが不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性も含めて調査倫理についても多角的に検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

Students will focus on society sociological research, trace qualitative researches, and study recent qualitative research findings. They will learn various qualitative methods through these cases. Based on various literatures, students will discuss social research processes, including collecting, analyzing, interpreting, and writing papers on field works' qualitative data. Recently research ethic has become essential in social research, so students will also discuss possibilities of researching party involved and relationships between researcher and research collaborators. Based on life story research methods, students will focus on discussing and analyzing various methods, including field work, interview, narrative theory, and ethnography writing.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:授業の進め方

【2】:質的調査研究とは何か:個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など質的データの特徴と質的調査をもちいた研究の系譜について学ぶ

【3】:質的調査の系譜:社会学における質的調査への道

【4】:質的調査法の種類:ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など

【5】:質的調査の技法:フィールドワークの方法

【6】:質的調査の技法:多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー

【7】:質的調査の技法:「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方

【8】:質的調査の技法:アーカイブ調査とアーカイブ資料の可能性

【9】:質的データの分析・解釈:フィールドノートとトランスクリプト

【10】:質的データの分析・解釈:語りの社会的・文化的文脈

【11】:質的データの分析・解釈:「分厚い記述」と生活世界へのまなざし

【12】: 調査実践と調査倫理の諸問題

【13】: 受講生による調査計画と調査方法: リサーチデザインと成果の呈示

【14】: 全体のふりかえりと質的調査の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

小林多寿子編『ライフストーリー・ガイドブック』嵯峨野書院 2010 9784782305096

参考文献 / Readings

プロジェクト研究A

Research Project A

国際的な人の移動と交流

(Global Migration and Transnational Relations)

太田 麻希子／水上 徹男／野呂 芳明／中山 由佳(OTA MAKIKO/ MIZUKAMI TETSUO/ NORO YOSHIAKI/ NAKAYAMA YUKA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB081
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	SOC5040
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	他研究科生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

グローバルな人の移動が進展する中で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。また、一定期間の外国滞在後に帰国したケースも含めたネットワーク形成のあり方も対象とする。調査の計画や実施、分析、報告書作成などのスキルの向上をねらう。実際に調査の計画を立て、経験することで、調査を実施するまでに必要な事項や、分析に至るまでを学ぶ。専門論文の作成にあたって、調査の方法論などを経験的に学ぶことができる。

This project, entitled “Global Migration and Transnational Networks,” focuses on Japan- Philippines, Japan- Bangladesh, and Japan- Vietnam relations. We will examine the international migration trends relating to Japanese society, and characteristics of contemporary ethnic communities. Additionally, we also undertake some research into the impact on the host society as well as on the migrants’ country of origin. Thus the research covers the network formation, that is the case of returning to homeland after staying foreign lands for a certain period of time. Our stance is from empirical research, gathering data from actual society. Students are expected to improve their skills in survey planning and quantitative and qualitative data analyses for completing research reports.

授業の内容 / Course Contents

本プロジェクト授業は、日本の大都市で形成されたエスニック・コミュニティの変貌やホスト社会への影響などを調べる。とくに国内のエスニック・コミュニティと帰還者とのトランスナショナルな絆、移住者を送出した国(ベトナム、フィリピン、 Bangladesh など)の変化、日本と海外の都市をつなぐような活動をしている組織等、例えば外国人居住者支援にかかわる NGO を通じて、聞き取り調査や国内でのフィールドワークを実施する。条件が整えば、海外フィールドワークも計画する。日本における多様なタイプの定住形態の類型化や、日本からの帰還者がいかに日本とかかわるか等、実証データの収集を行なう。

Contemporary metropolises have become embedded with various types of migrants, and current debate of “transnational migrants” emphasizes that migrants live in the interconnections with more than one nation state, or continuously keep their links with homelands, while living in the foreign host community. Our focus of the research is Japan-Philippines, Japan-Bangladesh, and Japan-Vietnam relations, gathering data by conducting intensive interviews with migrants as well as returnees from Japan. Each student studies Sociological theories and methods from the topic of global migration and resultant settlement patterns.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 文献講読 I: 対象となる地域やエスニック社会にかんする文献を講読

【3】: 文献講読 II

- 【4】: 文献講読 III
- 【5】: 文献講読 IV: インタビュー等の方法論を学ぶ
- 【6】: 文献講読 V
- 【7】: 中間発表 I
- 【8】: 中間発表 II
- 【9】: 調査企画 I: 先行研究のまとめとそれぞれの調査計画を設定する
- 【10】: 調査企画 II
- 【11】: 調査企画 III
- 【12】: 調査企画 IV
- 【13】: 中間報告 I
- 【14】: 中間報告 II
- 【15】: 秋学期ガイダンス: 秋学期の進め方およびフィールドワークのスケジュールなど
- 【16】: インタビューおよび質問票調査の検討I
- 【17】: インタビューおよび質問票調査の検討II
- 【18】: 実地調査(国内)I: フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
- 【19】: 実地調査(国内)II
- 【20】: 実地調査(海外)I: フィールドワークおよびインタビュー、質問票調査を実施
- 【21】: 実地調査(海外)II
- 【22】: データ検証I
- 【23】: データ検証II
- 【24】: データ検証III
- 【25】: 中間報告 I
- 【26】: 中間報告 II
- 【27】: 報告書作成I
- 【28】: 報告書作成II

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献報告の準備、フィールドワークで収集したデータの整理・分析、これらに基づいたレポートの執筆などが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での発表および討論への貢献:30% 研究報告および調査活動:35% 最終レポート
割合::35%

テキスト / Textbooks

吉成勝男・水上徹男・野呂芳明 『市民が提案するこれからの移民政策—NPO 法人 APFS の活動と世界の動向から』
現代人文社 2015

吉成勝男・水上徹男 『移民政策と多文化コミュニティへの道のり—APFS の外国人住民支援活動の軌跡—』 現代人文社 2018

International Organization for Migration (IOM) Country Migration Report: The Philippines IOM 2013

International Organization for Migration (IOM) The International Organization for Migration in Brife IOM 2014

OECD International Migration Outlook 2020 OECD 2018

適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

参考文献 / Readings

Smillie, Ian Freedom from Want Kumarian Press 2009

Vertovec, Steven Transnationalism (Key Ideas) Routledge 2009

Vinken, Henk, et al. (eds.) Civic Engagement in Contemporary Japan Springer 2010

適宜指示する。また、授業内でプリントを配布する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

調査の方法論や調査倫理および社会学の基礎理論について、予め学習していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Google Drive を使用する。

その他 / Others

海外フィールドワーク、国内フィールドワークの日程によって回は前後することがある。

プロジェクト研究B

Research Project B

「デジタル社会学」のリサーチデザイン

木村 忠正／川畑 泰子／和田 伸一郎／榎 剛史 (KIMURA TADAMASA/ KAWAHATA YASUKO/ WADA SHINICHIRO/ SAKAKI TAKESHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB082
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	SOC5040
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	他研究科生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

いわゆるソーシャルメディアの日常生活への浸透、社会全体の情報ネットワークに伴うビッグ・データの拡大などを背景として、「デジタル社会学」と呼ばれる分野が興隆しつつある。本プロジェクト研究では、社会調査に利用可能なデータが量および質において多様に展開している状況において、「デジタル社会学」としての調査研究をどのようにデザインするのかについて、具体的な分析方法とともに探索的に考察することを目的とする。

With the deep penetration of social media into daily life and the expansive generation of big data with the information network absorbing our contemporary society at large, the field called "digital sociology" is emerging. This project research seminar requires students to explore the way we could design research strategies with a wide variety of analytical methods as "digital sociology," in a situation where the data available for social research are diversifying both in quantitative data and qualitative one.

授業の内容 / Course Contents

ソーシャルメディア・ログデータをもとに、大規模でかつ豊富な特徴を備えたデータの分析方法について学ぶ。理論的な側面と分析例と方法論の学習を中心とする。とくに、ソーシャルメディア投稿の計量テキスト分析と、人々の情報行動に関するビッグデータを用いた、データサイエンス的分析を修得する。

Students will learn how to analyze large-scale, feature-rich data dealing with actual social media log data. The spring semester mainly focuses on theoretical aspects of digital sociology and fosters your acquisition of foundational methods and strategies of big data analysis using actual log data set.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読(1) デジタル社会学について
- 【3】: 文献講読(2) ハイブリッド・メソッドについて
- 【4】: 文献講読(3) ビッグデータ、ビジネスインテリジェンスについて
- 【5】: ビッグデータ解析方法論(1) ソーシャルメディア・ビッグデータ
- 【6】: ビッグデータ解析方法論(2) Python などのプログラミング言語
- 【7】: ビッグデータ解析方法論(3) テキスト・データの分析
- 【8】: ビッグデータ解析実践(1)
- 【9】: ビッグデータ解析実践(2)
- 【10】: ビッグデータ解析実践(3)
- 【11】: 分析報告とディスカッション(1)
- 【12】: 分析報告とディスカッション(2)

- 【13】: 分析報告とディスカッション(3)
- 【14】: 春学期総括と秋学期作業に向けての検討
- 【15】: 秋学期ガイダンス
- 【16】: 文献講読(1)リサーチデザインについて
- 【17】: 文献講読(2)データ収集・分析アプローチの選択
- 【18】: 文献講読(3)データ・マネジメント、調査倫理について
- 【19】: リサーチ・デザイン(1)問題設定・仮説構成
- 【20】: リサーチ・デザイン(2)データ収集・分析アプローチ
- 【21】: リサーチ・デザイン(3)計画報告とディスカッション
- 【22】: データ解析実践(1)
- 【23】: データ解析実践(2)
- 【24】: データ解析実践(3)
- 【25】: 分析報告とディスカッション(1)
- 【26】: 分析報告とディスカッション(2)
- 【27】: 分析報告とディスカッション(3)
- 【28】: 全体総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本プロジェクトでは、ビッグデータ解析をはじめ、一方で、統計的手法、情報工学的手法を積極的に用いるとともに、テキストデータに関しては質的調査の方法論もとりいれる。履修者には、社会調査の方法論、主として、プログラミング言語 Python のコーディングを含むデータ分析法(自然言語処理)について深く学習するとともに、リサーチを自らデザインし実施する積極性が求められる。各回復習に2時間、予習に2時間程度を要する課題が提示されるので、積極的に課題に取り組むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業期間内の作業:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

木村忠正 『ハイブリッド・エスノグラフィー』 新曜社 2018 4788515830

鳥海不二夫編著 『計算社会科学入門』 丸善出版 2021 4621305964

榎剛史編著 『Python ではじめるテキストアナリティクス入門』 講談社 2022 4065274109

授業内で指示する。

参考文献 / Readings

Deborah Lupton Digital Sociology Routledge 2014 1138022772

Jessie Daniels et al Digital Sociologies Policy Press 2016 9781447329015

そのほかは授業内で指示する。

プロジェクト研究D

Research Project D

東アジアのメディア、ジャーナリズム、ポピュラーカルチャー研究

黄 盛彬/林 怡シェン(HWANG SEONGBIN/ LIN I-HSUAN)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB084
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	SOC5040
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	他研究科生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

東アジア地域におけるメディアおよびジャーナリズムのシステムや文化について、グローバル比較の視点から理解する。調査研究を遂行するためのリサーチスキル、文献調査、メディアやエンタテインメント産業、そしてジャーナリズムに関わるデータ分析、アンケート、フィールドワーク、聞き取り調査などの研究手法を学ぶ。

This course aims to understand the systems and cultures of media/journalism industries in East Asia from a global comparative perspective. Students will learn research skills, literature review, and data analysis related to the media, journalism, and culture industry. The research methods include questionnaires, fieldwork, interviews, and other research skills to carry out the research project.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおけるメディアの構造およびジャーナリズムの作り手であるジャーナリストのプロフェッションの変化を中心に考察する。比較する対象地域は、台湾、韓国、日本、そして香港、シンガポールなどを視野に入れて、受講生の構成や希望などを考慮して定める。

調査方法としては、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査、フィールドワーク、聞き取り調査などを用いる。文献輪読を通して理論的な分析視点を学び、先行研究のレビューを行いつつ、受講生は、自ら研究調査計画の設計、データ収集に取り組む。春学期中は、メディアシステム分析、質的メディア分析、アンケート調査を中心に行い、夏から秋学期中にかけて適切な時期にフィールド調査を行う。

This course will compare media, journalism, and popular culture in East Asia from the perspectives of media and journalism studies. Considering the students' research interests, the target regions for comparison will be Taiwan, South Korea, Japan, Hong Kong, and Singapore.

Research methods include media system analysis, qualitative media analysis, questionnaire surveys, fieldwork, and interviews. Students will learn theoretical analysis perspectives through reading literature and reviewing previous research, while each will design their research plan and collect data. We will focus on media system analysis, qualitative media analysis, and questionnaire surveys in the spring semester and conduct field surveys in the target areas in the fall semester.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 文献輪読
- [3]: 文献輪読
- [4]: 文献輪読
- [5]: 各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
- [6]: 各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析

- 【7】:各国・地域におけるメディア・ジャーナリズムの現状分析
- 【8】:データ収集・分析の実践
- 【9】:データ収集・分析の実践
- 【10】:データ収集・分析の実践
- 【11】:分析報告とディスカッション
- 【12】:分析報告とディスカッション
- 【13】:分析報告とディスカッション
- 【14】:総括
- 【15】:フィールド調査計画の検討
- 【16】:フィールド調査計画の検討
- 【17】:関連研究1・先行調査1
- 【18】:関連研究2・先行調査2
- 【19】:調査準備1
- 【20】:調査準備2
- 【21】:調査実施1
- 【22】:調査実施2
- 【23】:調査実施3
- 【24】:データ検証1
- 【25】:データ検証2
- 【26】:プレゼンテーション1
- 【27】:プレゼンテーション2
- 【28】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画は、調査計画及び実施の過程で、予定などが前後することがある。

講読以外に、調査・発表における作業上のやりとり で英語を使用する機会があるので、アカデミック・ライティングなども含めて学習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表及び討論:30% 研究プレゼンテーション:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

NHK 放送文化研究所 『NHK データブック 世界の放送 2021』 NHK 出版 2021

Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini Comparing Media Systems: Three Models of Media and Politics Cambridge University Press 2000 0521543088

Hallin, C. Daniel and Paolo Mancini Comparing Media Systems Beyond the Western World Cambridge University Press 2012 1107699541

Hanitzsch, Thomas, Folker Hanusch, Jyotika Ramaprasad Worlds of Journalism: Journalistic Cultures Around the Globe Columbia Univ Pr 2019 0231186428

林怡蓁 『台湾のエスニシティとメディア—統合の受容と拒絶のポリティクス』 立教大学出版会 2014 4901988255

Carlson, Matt and Seth C. Lewis Boundaries of Journalism: Professionalism, Practices and Participation Routledge 2015 1138017841

ジェンキンス, H. 『コンヴァージェンス・カルチャー: ファンとメディアがつくる参加型文化』 晶文社 2021 4794972482

授業内で提示する。

リサーチ英語演習A

Research English A

モライス, L. (MORAIS LILIANA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB431
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6021
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. Acquire the basic tools for graduate research.
2. Write and present a research proposal in English.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to help students acquire the necessary tools to undertake graduate-level research in English. Students will be guided through several steps to write and present a clear, logical, and structured research proposal.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Syllabus overview and Introductions
- 【2】: What is a research proposal?
- 【3】: Finding relevant papers and writing bibliographical references
- 【4】: Reading strategies, note-taking, citations, and plagiarism
- 【5】: Annotated bibliography versus literature review
- 【6】: Research questions and methods
- 【7】: Structure of a research proposal I
- 【8】: Structure of a research proposal II
- 【9】: Structure of a research proposal III
- 【10】: Structure of a research proposal IV
- 【11】: Peer-review and discussion I
- 【12】: Peer-review and discussion II
- 【13】: Peer-review and discussion III
- 【14】: Final presentations and submission of research proposal

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Peer-review

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read chapters of the textbook, read papers relevant to their research topics, plan for in-class

assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research proposal.

Students are expected to dedicate at least 2 hours of preparation before each class, and at least one hour of post-class study per week for reviewing class slides. For the final research proposal, which will culminate in an oral presentation and a written report, students should expect to dedicate at least 25 hours of outside-of-class work.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:10% Homework and in-class assignments:25% Peer-review and discussion:20% Oral presentation:15% Research proposal:30%

テキスト / Textbooks

WANG, Gabe T.; PARK, Keumjae Student research and report writing :from topic selection to the complete paper
Wiley-Blackwell 2016 9781118963913

参考文献 / Readings

Additional reading assignments will be announced in class and made available online.

リサーチ英語演習B

Research English B

モライス, L. (MORAIS LILIANA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB432
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6021
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. Read and discuss academic papers in English.
2. Consider different research methods and designs.
3. Discuss the progress of your research.
4. Write and present a report of your research.

授業の内容 / Course Contents

Students will engage in reading and discussing academic papers focused on various topics, research methods, and designs, discuss the progress of their research, and write a research report in English.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Syllabus overview and introductions
- 【2】:Reading and Discussion I
- 【3】:Reading and Discussion II
- 【4】:Reading and Discussion III
- 【5】:Reading and Discussion IV
- 【6】:Reading and Discussion V
- 【7】:Reading and Discussion VI
- 【8】:Reading and Discussion VII
- 【9】:Reading and Discussion VIII
- 【10】:Writing Activity
- 【11】:Peer-review and discussion of research report I
- 【12】:Peer-review and discussion of research report II
- 【13】:Peer-review and discussion of research report III
- 【14】:Final presentations and submission of research report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Peer-review

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read papers on various research topics, methods, and designs, plan for in-class assignments and discussions, prepare an oral presentation, and write a research report.

Students are expected to dedicate at least 2 hours of preparation before each class, and at least one hour of post-class study per week for reviewing class slides. For the final research proposal, which will culminate in an oral presentation and a written report, students should expect to dedicate at least 25 hours of outside-of-class work.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:10% Homework and in-class assignments:25% Peer-review and discussion:20% Oral presentation:15% Research report:30%

テキスト / Textbooks

WANG, Gabe T.; PARK, Keumjae Student research and report writing: from topic selection to the complete paper
Wiley-Blackwell 2016 9781118963913

参考文献 / Readings

KOTTMANN, Nora; REIHER, Cornelia Studying Japan: Handbook of Research Designs, Fieldwork and Methods
Nomos 2020 3848750856

O'REILLEY, Karen Ethnographic Methods Routledge 2004 9780415321563

学術論文の技法

Academic Writing

日本語学術論文の書き方—形式と作法

岡田 陽介 (OKADA YOSUKE)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB461
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC5010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日本語学術論文の形式や作法について学び、適切な形式・表現を用いて履修者自身で論文を執筆できるようになることを目指す。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Students will learn to write theses with appropriate forms and expressions.

授業の内容 / Course Contents

日本語学術論文の形式や作法について学ぶ。各回では基本的な事項の解説の後、履修者自身が用意した文章や小論文を教材として履修者同士で添削を行う。履修者の相互添削を通して、日本語学術論文の形式や作法の理解を深め、履修者自身が適切な形式の学術論文の技法を身につける。

Students will learn structures and methods of Japanese academic papers. Each time, after professor explains basic matters, students edit their own passages or short essays with each other. Through this collaborated editing, students will deepen their understanding about structures and methods of Japanese academic papers. Students will acquire appropriate forms and academic paper techniques.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 授業の狙いと各回の説明・授業を行う上での注意事項の説明
- 【2】: 日本語学術論文の形式(1): 論文の構成(問いと仮説)
- 【3】: 日本語学術論文の形式(2): 論文の構成(問いと仮説)
- 【4】: 日本語学術論文の形式(3): 先行研究の整理の仕方 1
- 【5】: 日本語学術論文の形式(4): 先行研究の整理の仕方 2
- 【6】: 日本語学術論文の作法(1): 記述上の約束事/注
- 【7】: 日本語学術論文の作法(2): 引用・文献リスト
- 【8】: 日本語学術論文の作法(3): 図表の注意事項
- 【9】: 日本語学術論文の作法(4): 校正
- 【10】: 小論文の相互添削(1)
- 【11】: 小論文の相互添削(2)
- 【12】: 小論文の相互添削(3)
- 【13】: 小論文の相互添削(4)
- 【14】: 小論文の相互添削(5)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の主たる教材は授業時間外に各自が執筆した文章や小論文となる。従って、各回で指示する授業時間外の課題に取り組むことが必須となる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回課題の提出状況:30% 授業への貢献度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本社会学会『社会学評論 スタイルガイド』(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時にノートPC を持参することが望ましい。

計量社会学研究

Quantitative Sociology
計量社会学の基礎と応用

三輪 哲(MIWA SATOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB703
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学では、多様なモデルが用いられている。この授業では、それらモデルのうち、いくつかのものに焦点をあて、方法論的基礎と応用例を学ぶことを目標とする。

2025 年度は、「縦断的データの分析モデル」を特にとりあげる。

A variety of models are used in quantitative sociology. In this class, we will focus on some of these models and aim to learn the methodological foundations and application examples.

In 2024, we will particularly focus on the models for longitudinal data analysis.

授業の内容 / Course Contents

まず、計量社会学の全体像と、今年扱う内容にかかわる内容についての基本的事項を講義する。

その後、テキスト講読をおこなって、モデルの方法的基礎を理解する。なお今年は、特に、固定効果モデル、潜在成長曲線モデルをとりあげる。

受講生は、それらモデルを用いた実証研究論文を探し、報告をする。

時には、これらモデルのソフトウェアによる実践について、演習をおこなうこともある。

First, I will give a lecture on the overall picture of quantitative sociology and basic matters related to the content that will be covered this year.

Afterwards, students will read the text to understand the methodological basis of the model. This year, we will particularly focus on fixed effects regression models and latent growth curve models.

Students will search for empirical research papers using these models and report on them.

At times, we also conduct exercises on implementing these models using software.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 計量社会学の役割と回帰モデルの基本

【3】: 『固定効果モデル』第 2 章

【4】: 『固定効果モデル』第 3 章

【5】: 『固定効果モデル』第 4 章

【6】: 『固定効果モデル』第 5 章

【7】: 『固定効果モデル』第 6 章

【8】: 『潜在成長曲線モデル』第 1 章

【9】: 『潜在成長曲線モデル』第 2 章

【10】: 『潜在成長曲線モデル』第 3 章

【11】: 『潜在成長曲線モデル』第 4 章

【12】:『潜在成長曲線モデル』第5章

【13】:実証論文に基づく報告(1)

【14】:実証論文に基づく報告(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所の予習と、復習を兼ねて関連文献の渉猟が求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:50% 取り組みの積極性:50%

テキスト / Textbooks

P. Allison(太郎丸博監訳)『固定効果モデル』共立出版 2022 9784320114128

K. J. Preacher et al.(大橋洸太郎訳)『潜在成長曲線モデル』共立出版 2023 9784320114166

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学部科目「多変量解析」および秋学期開講「量的分析法」を既習またはそれと同等の知識水準を有することが求められる。

相互行為論演習

Seminar: Social Interaction
趣味活動のコミュニケーション

是永 論 (KORENAGA RON)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB706
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

趣味活動のコミュニケーションとモビリティーズの関係について考察することを目的とする。

This course aims to study the relationship of communication in hobbyist activities and mobilities.

授業の内容 / Course Contents

主に衣食住に関わる趣味的な活動におけるコミュニケーションをモビリティーズの社会学(J.アーリなど)の背景から研究することを目的に、社会学における身体・メディア・技術へのアプローチを概観するとともに、エスノメソドロロジーにおけるワーク研究などの観点から検討する。また、データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

This course will accord students the opportunity to study communication in hobbyist activities on the basis of sociology of mobilities and ethnomethodological study of work in addition to sociological approaches to bodies, media and technologies. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 趣味の社会学1(趣味活動のデータ)
- 【3】: 趣味の社会学2(シリアス・レジャー)
- 【4】: モビリティーズの社会学1
- 【5】: モビリティーズの社会学2
- 【6】: モビリティーズの社会学3
- 【7】: エスノメソドロロジー1
- 【8】: エスノメソドロロジー2
- 【9】: エスノメソドロロジー3
- 【10】: データセッション1
- 【11】: データセッション2
- 【12】: データセッション3
- 【13】: データセッション4
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定			

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には、データ・ベース利用やビデオ分析の手法について、ソフトウェアを用いた実習への参加を義務付ける。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出物の評価:40% ゼミにおける発表及び活動状況の評価:60%

テキスト / Textbooks

授業にて適宜指示する(論文・書籍の一部をオンラインで共有の予定)。

参考文献 / Readings

山崎敬一ほか編 『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』 新曜社 2023 9784788517943

橋本純一編 『スポーツ観戦学』 世界思想社 2010 9784790714545

E.ゴッフマン 『出会い——相互行為の社会学』 誠信書房 1985 9784414518023

小宮友根ほか編 『実践の論理を描く』 勁草書房 2023 9784326603572

Lynch,M and Lindwall,O. eds. Instructed and Instructive Actions Routledge 2024 9781032230719

小川葉子ほか編 『モビリティーズのまなざし』 丸善出版 2020 9784621305652

授業にて指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会学の基礎的な知識

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材の共有や資料提示等はすべてオンラインでおこなうため、スクリーンに投映出来る機能をもったパソコンを準備してください。

その他 / Others

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

ライフストーリー研究

Research: Life Story Studies
ライフストーリー研究の基礎

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB709
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶことを目的とする。

The aims to help students learn about the basic ideas and perspectives of life story research.

授業の内容 / Course Contents

他者のライフを理解するとはどういうことか。そもそも「ライフ」とは何か。関連文献を批判的に読み解き、ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶ。また、受講者自身の調査研究についても報告してもらう。

What it means to understand life of others? What is "life" in the first place? Students will critically read literatures related to life story research, and learn about the basic ideas and perspectives of life story research. Furthermore, students will report on their own field research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 調査研究報告・文献報告
- 【3】: 調査研究報告・文献報告
- 【4】: 調査研究報告・文献報告
- 【5】: 調査研究報告・文献報告
- 【6】: 調査研究報告・文献報告
- 【7】: 調査研究報告・文献報告
- 【8】: 調査研究報告・文献報告
- 【9】: 調査研究報告・文献報告
- 【10】: 調査研究報告・文献報告
- 【11】: 調査研究報告・文献報告
- 【12】: 調査研究報告・文献報告
- 【13】: 調査研究報告・文献報告
- 【14】: 調査研究報告・文献報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:50% 報告内容:50%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

ライフストーリー演習

Seminar: Life Story Studies
ライフストーリー研究の基礎

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB710
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶことを目的とする。

The aims to help students learn about the basic ideas and perspectives of life story research.

授業の内容 / Course Contents

他者のライフを理解するとはどういうことか。そもそも「ライフ」とは何か。関連文献を批判的に読み解き、ライフストーリー研究の基本的な考え方や視点を学ぶ。また、受講者自身の調査研究についても報告してもらう。

What it means to understand life of others? What is "life" in the first place? Students will critically read literatures related to life story research, and learn about the basic ideas and perspectives of life story research. Furthermore, students will report on their own field research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 調査研究報告・文献報告
- 【3】: 調査研究報告・文献報告
- 【4】: 調査研究報告・文献報告
- 【5】: 調査研究報告・文献報告
- 【6】: 調査研究報告・文献報告
- 【7】: 調査研究報告・文献報告
- 【8】: 調査研究報告・文献報告
- 【9】: 調査研究報告・文献報告
- 【10】: 調査研究報告・文献報告
- 【11】: 調査研究報告・文献報告
- 【12】: 調査研究報告・文献報告
- 【13】: 調査研究報告・文献報告
- 【14】: 調査研究報告・文献報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:50% 報告内容の内容:50%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

エスノメソドロジー研究

Ethnomethodology

エスノメソドロジーの基本的な考え方

前田 泰樹 (MAEDA HIROKI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB711
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

エスノメソドロジーの基本的な考え方を習得することを目的とする。

The purpose of this class is to obtain a grasp of basic ideas of ethnomethodology.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、対象となる私たち社会成員の側が、何らかの**ことば**(=概念)を用いて、自らの**経験**や**行為**を理解しているという事実と向き合ってきた。実際に私たちは、日常生活から始まって病いの**経験**や**ケア**の実践などにいたるまで、何らかの方法(論)を用いて自らの**経験**や**行為**を理解し、さまざまな社会生活を営んでいる。授業では、**私たちが社会生活を営むさいに実際に用いている方法(論)**を捉えようとするエスノメソドロジー研究の現在の潮流(ワークの研究や会話分析など)について検討する。また、参加者の関心に従って、具体的な事例の分析的検討を行う機会を設ける予定である。

We will explore contemporary directions of the ethnomethodological studies, including studies of work and conversation analysis. We will also conduct “data sessions” according to the participants’ interests.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 文献の報告・事例の検討

【3】: 文献の報告・事例の検討

【4】: 文献の報告・事例の検討

【5】: 文献の報告・事例の検討

【6】: 文献の報告・事例の検討

【7】: 文献の報告・事例の検討

【8】: 文献の報告・事例の検討

【9】: 文献の報告・事例の検討

【10】: 文献の報告・事例の検討

【11】: 文献の報告・事例の検討

【12】: 文献の報告・事例の検討

【13】: 文献の報告・事例の検討

【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定			

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容:50%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

エスノメソドロジー演習

Seminar: Ethnomethodology

エスノメソドロジーの基本的な考え方・分析の態度

前田 泰樹 (MAEDA HIROKI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB712
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

エスノメソドロジーの基本的な考え方および分析の態度を習得することを目的とする。

The purpose of this class is to obtain a grasp of basic ideas and analytical skills of ethnomethodology.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、対象となる私たち社会成員の側が、何らかの**ことば**(=概念)を用いて、自らの**経験**や**行為**を理解しているという事実と向き合ってきた。実際に私たちは、日常生活から始まって病いの**経験**や**ケア**の実践などにいたるまで、何らかの方法(論)を用いて自らの**経験**や**行為**を理解し、さまざまな社会生活を営んでいる。授業では、**私たちが社会生活を営むさいに実際に用いている方法(論)**を捉えようとするエスノメソドロジー研究の現在の潮流(ワークの研究や会話分析など)について検討する。また、参加者の関心に従って、具体的な事例の分析的検討を行う機会を設ける予定である。

We will explore contemporary directions of the ethnomethodological studies, including studies of work and conversation analysis. We will also conduct “data sessions” according to the participants’ interests.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献の報告・事例の検討
- 【3】: 文献の報告・事例の検討
- 【4】: 文献の報告・事例の検討
- 【5】: 文献の報告・事例の検討
- 【6】: 文献の報告・事例の検討
- 【7】: 文献の報告・事例の検討
- 【8】: 文献の報告・事例の検討
- 【9】: 文献の報告・事例の検討
- 【10】: 文献の報告・事例の検討
- 【11】: 文献の報告・事例の検討
- 【12】: 文献の報告・事例の検討
- 【13】: 文献の報告・事例の検討
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定			

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容:50%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

家族社会学演習

Seminar: Sociology of Family

グローバル化社会における「公」と「私」の再編を考える。(Considering the restructuring of "Public" and "Private" in a globalized society.)

本多 真隆 (HONDA MASATAKA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB714
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、親密圏および公共圏についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、グローバル化にともなう「公」と「私」の再編を捉えるための理論的枠組みの習得を目指す。

In this course, students will read and discuss domestic and international literature on the intimate spheres and public spheres, with the aim of acquiring a theoretical framework for understanding the reorganization of "public" and "private" in the context of globalization.

授業の内容 / Course Contents

近年は、家族社会学のみならずさまざまな社会科学の領域において、「公」と「私」の再編をあつかう研究が活性化している。これらの試みは、グローバル化にともなう社会変動によって従来の「公」と「私」の区分が機能不全になるなかで、新たな枠組みからその現状を捉えなおそうとするものであるといえる。そのテーマは、家族、ジェンダー、福祉、ケア、労働など多岐にわたっている。

本講義では、こうした「公」と「私」の再編に関する国内外の研究動向を学ぶ。研究動向に関する文献の講読だけでなく、受講者に各自の研究テーマへの応用を報告してもらおう場合もある。

In recent years, research on the reorganization of "public" and "private" has flourished, not only in the field of family studies but also in various other fields within the social sciences. These attempts have sought to redefine the current situation from a new framework as the traditional distinction between "public" and "private" becomes more dysfunctional due to social changes brought about by globalization. The themes of these studies are diverse, including family, gender, welfare, care, and labor.

In this lecture, students will learn about domestic and international research trends related to the reorganization of "public" and "private". In addition to reading the literature on research trends, students may be asked to report on its application to their own research topics.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション・文献の選定と割り当て
- [2]: 文献講読とディスカッション 1
- [3]: 文献講読とディスカッション 2
- [4]: 文献講読とディスカッション 3
- [5]: 文献講読とディスカッション 4
- [6]: 文献講読とディスカッション 5
- [7]: 文献講読とディスカッション 6

- 【8】: 文献講読とディスカッション 7
- 【9】: 文献講読とディスカッション 8
- 【10】: 文献講読とディスカッション 9
- 【11】: 文献講読とディスカッション 10
- 【12】: 文献講読とディスカッション 11
- 【13】: 文献講読とディスカッション 12
- 【14】: 文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジユメを作成し、事前に共有すること。また各回の講義で取り上げる文献は、報告者以外も読んでおくことが必須である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回の報告:50% 出席、議論の参加:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

E.Dermott, J. Seymour Displaying Families Palgrave Macmillan 2011 9780230246133

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学演習

Seminar: Sociology of Religion

現代社会論の探求(*なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学」「宗教社会学演習[この科目]」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)

小池 靖(KOIKE YASUSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB716
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

狭義の宗教にとどまらず、現代の精神状況を幅広く社会的に考察する。カウンセリング、セラピー、趣味界隈の話題も取り扱う。

In this graduate school seminar, we will not only focus on religion in the narrow sense, but will also consider the current state of the human psyche from a broad sociological perspective. We will also cover topics related to counseling, therapy, and hobbies.

授業の内容 / Course Contents

学部レベルを超えた文献・論文を輪読することを通じて、多様な社会学の議論に触れる。受講者の個人発表もおこなう。映像資料を見て議論する回も設ける。

例年は、各学生の興味関心にも基づき、毎週1本の学術論文を取り上げている。

Students will be exposed to a variety of sociological debates through reading of literature and articles beyond the undergraduate level. Individual presentations will be given. There will be times when students will watch and discuss video materials.

In past years, one academic article is selected each week based on the interests of each student.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究報告1
- 【3】: 研究報告2
- 【4】: 研究報告3
- 【5】: 映像資料
- 【6】: 輪読発表1
- 【7】: 輪読発表2
- 【8】: 輪読発表3
- 【9】: 映像資料
- 【10】: 輪読発表4
- 【11】: 輪読発表5
- 【12】: 輪読発表6
- 【13】: 映像資料
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備は充分におこなうこと。毎週の課題論文を読み込んでゆくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% 発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物):50%

テキスト / Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

随時指示する。

その他 / Others

諸注意

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

産業・労働社会学演習

Seminar: Sociology of Work and Employment
英語圏ジャーナルの労働研究理解

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB720
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

英語圏ジャーナルに掲載されている、新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメント・ワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ライフ・バランス、女性労働、移住・移民労働者、新しい労働運動などに関する諸論文を読み、最新の議論を検討・理解する。

Students will review and understand the latest studies on topics such as types of work in the new (or gig) economy, high-involvement work systems, flexible forms of employment, a work-life balance, women's work, migrant or immigrant workers and new labor movements which are discussed in English journals.

授業の内容 / Course Contents

新経済・ギグ経済における仕事、高インボルブメント・ワークシステム、多様な雇用形態、ワーク・ライフ・バランス、女性労働、移住・移民労働者、新しい労働運動などに関する英語圏ジャーナルの諸論文を講読し、最新の議論や論点を検討する。以下のジャーナルから最近の論文を選定し、講読する。

American Journal of Sociology,
American Sociological Review,
British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society など。

授業では、英語圏ジャーナルにおける最新の議論の理解のみならず、日本の経済・経営システム、労働・雇用状況に照らし合わせ、その議論の適用可能性や意味合いについても議論していきたい。

Students will review and understand the latest studies on topics such as types of work in the new (or gig) economy, high-involvement work systems, flexible forms of employment, a work-life balance, women's work, migrant or immigrant workers and new labor movements which are discussed in English journals. Students will read the latest articles from the following journals.

American Journal of Sociology,
American Sociological Review,
British Journal of Industrial Relation,
Capital and Class,
Economic and Industrial Democracy,
Labor Studies Journal,
Work, Employment and Society, etc.

In this class, students are able to understand the latest arguments discussed in English-speaking countries and areas and also to consider implications of these arguments for Japanese economy, society, and workers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction: 講読諸論文の紹介
- 【2】: 論文講読及びディスカッション
- 【3】: 論文講読及びディスカッション
- 【4】: 論文講読及びディスカッション
- 【5】: 論文講読及びディスカッション
- 【6】: 論文講読及びディスカッション
- 【7】: 論文講読及びディスカッション
- 【8】: 論文講読及びディスカッション
- 【9】: 論文講読及びディスカッション
- 【10】: 論文講読及びディスカッション
- 【11】: 論文講読及びディスカッション
- 【12】: 受講生の研究発表及びディスカッション
- 【13】: 受講生の研究発表及びディスカッション
- 【14】: 講読諸論文に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の英語論文を授業前までに読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内報告:50% 研究発表:20% ディスカッションへの参加:30%

テキスト / Textbooks

初回の授業にて提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市と空間の社会学演習

Seminar: Sociology of City and Space

高木 恒一 (TAKAGI KOICHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB724
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

文献講読とディスカッションを通じて、都市の社会-空間構造についての理解を深める

Understand the socio-spatial structure of the city through literature subscription and discussion.

授業の内容 / Course Contents

都市の社会-空間構造に関わる文献を講読・検討する。文献の選定にあたっては受講生の関心や研究テーマに即して決定することとする。合わせて、受講生の研究成果の発表する回も設定する。

Students will subscribe to and review literature related to the socio-spatial structure of cities. The selection of literature will be based on the students' interests and research themes. In addition, there will be a time for students to present their research results.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読とディスカッション
- 【3】: 文献講読とディスカッション
- 【4】: 文献講読とディスカッション
- 【5】: 文献講読とディスカッション
- 【6】: 文献講読とディスカッション
- 【7】: 文献講読とディスカッション
- 【8】: 文献講読とディスカッション
- 【9】: 受講生の研究報告
- 【10】: 受講生の研究報告
- 【11】: 受講生の研究報告
- 【12】: 受講生の研究報告
- 【13】: 受講生の研究報告
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献の事前購読、発表準備などをきちんと行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み状況:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

受講生と相談のうえ決定

参考文献 / Readings

随時提示する

環境社会学演習

Seminar: Environmental Sociology

環境＝社会という視点から社会問題としての原発について考える

関 礼子 (SEKI REIKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB734
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

環境社会学は、環境問題のメカニズムを解明し、一定の問題解決に寄与する学である。このクラスでは、日本史上最悪の公害問題である福島原発事故の被害構造について考察し、調査も行う。

Environmental sociology is the study of mechanisms of environmental problems and contributes to solving them. In this course, we will discuss and research the damage structure of the Fukushima nuclear accident, the worst pollution in Japanese history.

授業の内容 / Course Contents

基礎文献を読み、先行研究をふまえたうえで、オリジナリティのある問いをたてることは、学術論文を書くうえで重要である。この授業では、福島原発事故から 14 年の現在の課題を、類似する先行研究を参照しながら、環境問題のメカニズムを考えていく。

In order to write an original academic paper, it is important to read primary literature and make a question based on previous research. In this course, graduate students will consider the mechanisms of environmental problems, referring to previous research.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 原発のライフサイクルアセスメント

(鉱山－発電－廃棄/リサイクル－輸送)

他の類似する問題に何があるか。その問題の課題群はどのようなタイムスパンで捉えられるか。

【3】: 原発と環境との関係

(原子力と公害、環境問題との切断、クリーン・グリーンエネルギー)

1970 大阪万博に灯った「夢のエネルギー」だが、「夢の」と評された物質・技術はしばしば問題を起こした。問題を抱えた「夢の〇〇」の事例とともに、「夢」というプロパガンダを考える。

【4】: 風評被害はあるかないか

(風評、広告、トラブル、事故)

風評は原子力発電のトラブルと相関する。風評という言葉が持つ効果について考える。また、風評という言葉の現在性について考察する。

【5】: まとめ

【6】: 福島の原発と差止訴訟判決

(エネルギー、不確実性、予防原則)

原発なしでエネルギーはまかなえないか。リスクとは何か。

【7】: 福島原発事故と「ふるさと」

(故郷喪失の時代、コミュニティ創生、ふるさと喪失、ふるさと剥奪)

福島原発事故の被害とはどのようなものであったか／あるか。これまでに認容されてきた被害の類型を整理するとともに、環境＝社会の持つ意味について考える。

【8】: 災害と復興

(災害ユートピア、犠牲の構造、復興災害、ショック・ドクトリン)

災害時に何がクローズアップされて報じられ、何が自肅的に報じられないのか。自然災害と原発災害の違いはどこにあるのか。

【9】: まとめ

【10】: 調査とディスカッション①

裁判傍聴、ヒアリング、フィールド調査など学外での調査活動を、履修者と内容や日程を相談して実施。

【11】: 調査とディスカッション②

【12】: 調査とディスカッション③

【13】: 調査とディスカッション④

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、レジュメ作成、課題提出など

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成・報告:30% ディスカッション:20% 調査報告:50%

テキスト / Textbooks

各回ごとに指示する。

参考文献 / Readings

原発災害・避難年表編集委員会編 『原発災害・避難年表』 すいれん舎 2018 9784863695320

原子力総合年表編集委員会編 『原子力総合年表』 すいれん舎 2014 9784863692473

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

当り前を疑うという社会学の姿勢を習得していること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

ジャーナリズムスタディーズ研究

Journalism Studies

米欧日のマスメディア、オンラインメディア

橋本 晃 (HASHIMOTO AKIRA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB739
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

米欧と日本のマスメディアおよびオンラインメディアの構造・機能・現状・近未来について理解、蓄積を深めることがこの授業の目標である。特に、修士課程の学生には日本の新聞記事の内容分析、ディスコース分析、フレーム分析などを行って論文を書く者も多いが、そのためにも日本の新聞などがどのような体制でどのように記事を生産しているかに精通することは重要である。

This course is to deepen understanding and knowledge of the structure, function, current state, and near future of mass media and online media in the United States, Europe, and Japan. In particular, many master's students write their theses by conducting content analysis, discourse analysis, and frame analysis of Japanese newspaper articles. In order to do so, it is important to become familiar with the structure and methods by which Japanese newspapers and other media produce articles.

授業の内容 / Course Contents

米欧日のマスメディアとオンラインメディアの現在、近未来について概説したうえで、議論を行う。マスメディアには新聞、放送、出版のほか映画やポピュラー音楽産業も含まれる。オンラインメディアは新聞・出版社などが運営するものとオンラインのみで展開するメディアの双方を扱う。

This course will provide an overview of the current and near future of mass media and online media in the United States, Europe and Japan, followed by a discussion. Mass media includes newspapers, broadcasting, publishing, as well as the film and popular music industries. Online media includes both media operated by newspapers and publishers, and media which is only available online.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 米欧の新聞
- [3]: 日本の新聞
- [4]: 放送
- [5]: 出版
- [6]: 映画
- [7]: ポピュラー音楽産業
- [8]: 米欧のオンラインメディア
- [9]: 日本の新聞・出版社のオンラインメディア
- [10]: 日本のポーンデジタルメディア
- [11]: リサーチ発表
- [12]: リサーチ発表

【13】:リサーチ発表

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを割り当てて、議論するので、必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、発表、議論など授業への参加:100%

テキスト / Textbooks

藤竹暁・竹下俊郎 『図説 日本のメディア』 NHK 出版 2018 4140912537

参考文献 / Readings

ジャーナリズムスタディーズ演習

Seminar: Journalism Studies

ジャーナリズム諸理念とマスメディア、オンラインメディア、ソーシャルメディア

橋本 晃 (HASHIMOTO AKIRA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB740
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ジャーナリズムには近代初頭の誕生から長い時間をかけて積み上げてきた理念、規範、スタイル(文体)がある。日々の報道、記事はそうした諸規範を踏まえて生産されている。したがって、新聞記事などを材料に内容分析、ディスコース分析、フレーム分析などを行う際には、そうした積み上げてきた諸理念・規範を十分に理解し、蓄積をつくる必要がある。この授業はそうした理解、蓄積を深めることを目標とする。

Journalism has a long history of ideas, norms, and styles (writing style) that have been built up since its birth in the early modern Europe. Daily reports and articles are produced based on these ideas and norms. Therefore, when conducting content analysis, discourse analysis, frame analysis, etc. using newspaper articles as material, it is necessary to fully understand and accumulate knowledge of these ideas and norms. This course is to deepen understanding and knowledge in this field.

授業の内容 / Course Contents

まず、歴史上初のジャーナリズム理念である言論・プレスの自由について概説。ついで、19世紀前半から半ばにかけてアメリカで登場したペニープレスと近代的通信社が打ち出した中立、それから19世紀末のやはりアメリカで革新主義の潮流に乗るかたちで提唱されたプレスの独立、公共奉仕などの理念、規範を扱う。さらに、未曾有のプロパガンダ戦だった第一次世界大戦を経て、1930年代アメリカで生まれた客観報道という考え方を取り上げる。その後、実際の新聞やオンラインメディアの記事で上記のような諸理念・規範がどのように採用されているかを検討する。

First, the course will provide an overview of freedom of speech and the press, the first journalistic idea in history. It will then discuss the neutrality advocated by the penny press and modern news agencies that emerged in the United States in the early to mid-19th century, as well as the ideas and norms of independence of the press and public service that were advocated in the United States at the end of the 19th century in line with progressivism. It will also look at the idea of objectivity, which emerged in the United States in the 1930s after the unprecedented propaganda campaign of World War I. It will then examine how these ideas and norms have been adopted in today's newspaper and online media articles.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 言論・プレスの自由
- 【3】: 中立
- 【4】: プレスの独立・公共奉仕
- 【5】: 客観報道
- 【6】: 誰がジャーナリストか フランスの事例
- 【7】: オンラインメディアとジャーナリズム

- 【8】:新聞記事分析
- 【9】:新聞記事分析
- 【10】:オンラインメディア記事分析
- 【11】:オンラインメディア記事分析
- 【12】:ソーシャルメディア分析
- 【13】:ソーシャルメディア分析
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定された章を必ず読んで授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論・発表など授業への参加:100%

テキスト / Textbooks

橋本晃 『国際紛争のメディア学』 青弓社 2006 4787232576

参考文献 / Readings

文化人類学演習

Seminar: Cultural Anthropology

ジョン・アーリ『モビリティーズ:移動の社会学』を読む

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB750
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

ジョン・アーリの『モビリティーズ:移動の社会学』を精読することをとおして、社会学・人類学における移動論的転回について理解する。

This course aims to understand the "mobilities turn" in sociology and anthropology through a close reading of John Urry's "Mobilities".

授業の内容 / Course Contents

2024 年度には、ブルーノ・ラトゥールのアクターネットワーク理論に関する文献を輪読しました。2025 年度は、ブルーノ・ラトゥールから大きな影響を受けて発展した「モビリティーズ研究」について、ジョン・アーリの『モビリティーズ』を読みながら考えます。授業は文献の精読とディスカッションを中心に進めます。

In 2024, we read literature on Bruno Latour's Actor-Network Theory in this course. In 2025, we will discuss 'Mobility Studies,' which has developed significantly under the influence of Bruno Latour, while reading John Arri's "Mobilities." The class will focus on close reading of the literature and discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入および授業の進め方についての議論
- 【2】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(1)
- 【3】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(2)
- 【4】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(3)
- 【5】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(4)
- 【6】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(5)
- 【7】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(6)
- 【8】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(7)
- 【9】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(8)
- 【10】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(9)
- 【11】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(10)
- 【12】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(11)
- 【13】: ジョン・アーリ『モビリティーズ』を読む(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業は基本的にディスカッションが中心となる。参加者全員が授業までに文献に目を通しておく。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での議論:100%

テキスト / Textbooks

ジョン・アーリ 『モビリティーズ:移動の社会学』 作品社 2015 9784861825286

その他のテキストは授業内で指示する。

参考文献 / Readings

現代文化社会論

Contemporary Culture and Society

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB751
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代文化と社会の関係性に関する理論研究やフィールド調査研究/リサーチプロジェクト、研究発表などへの参加を通じて、自らの研究を発展させていくことを目標とする。

This course provides an opportunity to study theories and practices of the relationship between contemporary culture and society.

授業の内容 / Course Contents

授業では、第一に、現代文化と社会的諸主体・制度・権力との関係性などに関する、文化批評理論や文化社会学、文化政策研究などの分野の理論研究を行っていく。さらに、履修者各自の問題意識やテーマ設定に基づいた研究発表およびディスカッションを実施する。その他、履修者の関心に基づきながら、随時、実践プロジェクトやフィールドワークへの参加を行う場合もある。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- research presentations
- field research, practical projects

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:文献講読
- 【3】:文献講読
- 【4】:文献講読
- 【5】:プロジェクト/フィールドワーク
- 【6】:研究発表
- 【7】:研究発表
- 【8】:研究発表
- 【9】:文献講読
- 【10】:文献講読
- 【11】:プロジェクト/フィールドワーク
- 【12】:研究発表
- 【13】:研究発表
- 【14】:研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読ならびに研究発表では、事前の発表準備等を行うことが必須となる。また、研究発表に関しては、自ら事前・追加調査研究を行うことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加(文献講読、研究発表、ディスカッションへの参加 ほか):100%

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

消費社会・消費文化演習

Seminar: Consumer Society and Consumer Culture
 現代の資本主義の理解

貞包 英之 (SADAKANE HIDEYUKI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB754
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

消費社会の理論について詳細に理解する。

消費社会はいかなる過去を持ち、それが現在のあり方いかに影響を与えているかを詳細に理解する。

消費社会で展開されている様々な事象について社会学に則して理解する。

To understand in detail the theory of consumer society.

To understand in detail the past of the consumer society and how it has influenced the present.

To understand the different events that take place in consumer society according to sociology.

授業の内容 / Course Contents

消費社会について理解するために、様々な文献を読んでいきます。本年は資本主義の現在のあり方を理解するために、加速主義に関わる文献を購読予定です。

We will be reading a variety of literature to understand the consumer society. This year we will be subscribing to literature related to accelerationism in order to understand the current state of capitalism.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 消費社会を考えることの展望と授業の詳細について説明する。

【2】: 文献講読予定

【3】: 文献講読予定

【4】: 文献講読予定

【5】: 文献講読予定

【6】: 研究発表予定

【7】: 研究発表予定

【8】: 研究発表予定

【9】: 研究発表予定

【10】: 研究発表予定

【11】: 研究発表予定

【12】: 研究発表予定

【13】: 研究発表予定

【14】: 研究発表予定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを読む(3時間)とともに、各自で分析する(1時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表 1:40% 発表 2:40% 授業参加度:20%

詳細は追って提示する

テキスト / Textbooks

貞包英之 『消費社会を問い直す』 筑摩書房 2023

マーク・フィッシャー 『資本主義リアリズム』 堀之内出版 2018

マーク・フィッシャー 『ポスト資本主義の欲望』 左右社 2023

参考文献 / Readings

詳細は追って提示する

その他 / Others

初回時に説明と文献選定をおこなうため、かならず出席すること。

音楽社会学研究

Sociology of Music

音楽社会学研究の最先端:ミュージッキングの可能性

井手口 彰典 (IDEGUCHI AKINORI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB757
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

音楽社会学の先進的な研究成果に触れ、自身の研究に活用できるようになる。

Students will be exposed to the results of advanced study in the sociology of music, and will be able to utilize the results in their own research.

授業の内容 / Course Contents

2021 年末に刊行された『音楽の未明からの思考』(日本語・教科書指定)を手引きとして、「ミュージッキング」の概念を習得する。その上で、自身も「ミュージッキング」の観点に立った研究分析を行い、レポートを執筆する。受講者には十分な日本語の読解力が求められる。

Students will learn the concept of "Musicking" by using "Ongaku no mimei karano shikou" (a textbook written in Japanese, 2021), as a guide. Then, they will conduct their own research and analysis from the perspective of "Musicking," and write a report.

Students are required to have sufficient reading skills of Japanese.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション:ミュージッキングとは何か
- 【2】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【3】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【4】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【5】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【6】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【7】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【8】: 教科書読解と内容紹介発表
- 【9】: 個別研究発表
- 【10】: 個別研究発表
- 【11】: 個別研究発表
- 【12】: 個別研究発表
- 【13】: 個別研究発表
- 【14】: 個別研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書内容の発表準備、個別研究の発表準備。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内発表:60% 授業中の積極的な発言:40%

テキスト / Textbooks

野澤豊一(他)『音楽の未明からの思考——ミュージッキングを超えて』アルテスパブリッシング 2021 4865592474

参考文献 / Readings

その他 / Others

受講者は事前に教科書を購入し最初の授業に持参すること

音楽社会学演習

Seminar: Sociology of Music

音楽・舞踊の競技性:なぜパフォーマンスで競い合うのか。

澤田 聖也 (SAWADA SEIYA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB758
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

2024 年に刊行された『コンクール文化論 競技としての芸術・表現活動を問う』を輪読し、パフォーマンスを競い合うことについて考える。その上で、受講生はパフォーマンスの競技性をテーマにレポートの執筆とプレゼンテーションをする。授業計画は、受講生の人数や授業の進捗度合いで多少の変化あり。受講者には十分な日本語の読解力が求められる。Students will read in rotation the book “Competition Culture : Questioning Artistic and Expressive Activities as Competitions” published in 2024, and consider the idea of competing in performance. Students will then write a report and give a presentation on the competitive nature of performance. The class plan may change slightly depending on the number of students and the progress of the class. Students are expected to have sufficient Japanese reading comprehension.

授業の内容 / Course Contents

音楽社会学の先端的な研究成果に触れ、自身の研究に活用できるようになる。

Students will be exposed to the results of advanced study in the sociology of music, and will be able to utilize the results in their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション:コンクール文化とは
- 【2】: 輪読①
- 【3】: 輪読②
- 【4】: 輪読③
- 【5】: 輪読④
- 【6】: 輪読⑤
- 【7】: 輪読⑥
- 【8】: レポート発表
- 【9】: レポート発表
- 【10】: レポート発表
- 【11】: レポート発表
- 【12】: レポート発表
- 【13】: レポート発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

レポートの執筆と発表プレゼンテーションの準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内発表:40% 授業内の積極的な発言:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

宮入 恭平(編著) / 増野 亜子(編著) / 神保 夏子(編著) / 小塩 さとみ(編著) 『コンクール文化論 競技としての芸術・表現活動を問う』 青弓社 2024

参考文献 / Readings

受講者は事前に教科書を購入し最初の授業に持参すること

教育社会学演習

Seminar: Sociology of Education
東アジアにおける影の教育と不平等

多喜 弘文(TAKI HIROFUMI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB762
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、日本や中国、韓国、台湾などの東アジア社会における学校外教育(影の教育)と不平等にかんする英語文献を読むことを通じ、非欧米圏における教育機会の不平等を欧米圏の文脈と比較しながら考えるための視野を獲得する。文献の報告担当者は内容に関するプレゼンを行う。報告担当以外の受講生も事前に文献を読んで授業に臨み、全員でディスカッションを行う。

In this course, students will read English literature on out-of-school education (so-called "shadow education") and inequality in East Asian societies, including Japan, China, South Korea, and Taiwan. Students will gain an insight for thinking about educational inequality in non-Western contexts, comparing it with the Western context. Each participants will give a presentation on the assigned literature and engage in class discussions together.

授業の内容 / Course Contents

学校外教育(影の教育)と不平等にかんする英語文献を取り上げる。各回について文献レビュー担当を割り振るが、ディスカッションを実りあるものとするために出席者は全員事前に文献を読み、コメントを用意してくることが求められる。ただし、大学院生を対象とした授業のため、受講者の関心に合わせて一定程度柔軟に運用する余地を残すものとする。

The course will explore English literature on the topics of shadow education and inequality. All the participants in this course are required to read the literature and prepare comments in advance in order to make the discussion fruitful. However, since this is a course aimed at graduate students, there will be some flexibility in the course structure to accommodate the interests of the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション・担当文献の割り振り

【2】: 文献講読と議論 1

【3】: 文献講読と議論 2

【4】: 文献講読と議論 3

【5】: 文献講読と議論 4

【6】: 文献講読と議論 5

【7】: 文献講読と議論 6

【8】: 文献講読と議論 7

【9】: 文献講読と議論 8

【10】: 文献講読と議論 9

【11】: 文献講読と議論 10

【12】: 文献講読と議論 11

【13】: 文献講読と議論 12

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

事前にその週の文献を読み、各々疑問点やコメントを用意すること。報告担当者はレジュメを準備して報告すること。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にその週の文献を読み、各々疑問点やコメントを用意すること。報告担当者はレジュメを準備して報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 指定された文献の紹介・発表:50% 議論への参加:30% 最終レポート:20%

テキスト / Textbooks

Young Chun Kim ほか Theorizing Shadow Education and Academic Success in East Asia Routledge 2023
0367564610

上記テキスト以外に取り上げる文献は授業時に紹介する。初回時にテキストを購入していなくてもよい(文献の共有方法は初回時に説明・相談する)。

参考文献 / Readings

その他 / Others

初回に文献の紹介および各回の担当者の割り当てを行うので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。大学院生を対象とする授業なので、上の内容をベースとしつつも、受講生の関心によっては文献を含め一定程度柔軟に運用する余地を残す。

経済社会学

Economic sociology

「埋め込みアプローチ」の展開

大倉 季久(OHKURA SUEHISA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB765
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

経済現象を捉える基本的な視点として、「埋め込みアプローチ」の特徴を理解すること、および「埋め込みアプローチ」を通して今日起こっている経済現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会的に認識すること。

Understanding the notion of embeddedness as a basic perspective on economic phenomena, and sociologically recognizing the various problems behind the economic phenomena that are occurring today through the notion of embeddedness.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、1980年代後半以降、アメリカを中心に発展してきた「新しい経済社会学」の潮流をもとに、経済現象を社会的に考える視点と方法について概説する。とくに市場メカニズムの現代的な特徴の解明に焦点を据えて、経済現象を読み解く視点としての「埋め込みアプローチ」の特色について紹介していく。

This course is an introduction to sustainability studies. We will outline the viewpoints and methods of sociologically thinking about economic phenomena, based on the trend of "new economic sociology" that has developed mainly in the United States since the latter half of the 1980s. Focusing on the the modern characteristics of the market mechanism, we will introduce the notion of embeddedness as a perspective of understanding economic phenomena.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクションー社会学と経済社会学
- 【2】: 埋め込みアプローチの基礎(1) ネットワーク分析の準備
- 【3】: 埋め込みアプローチの基礎(2) ネットワーク理論①弱い紐帯の強さ
- 【4】: 埋め込みアプローチの基礎(3) ネットワーク理論②ネットワークの開放性と閉鎖性
- 【5】: ビジネスとネットワーク(1) 市場の中のネットワーク
- 【6】: ビジネスとネットワーク(2) 企業の秩序としての業界
- 【7】: ビジネスの日常へ(3) 経済と権力
- 【8】: 転職とキャリア
- 【9】: 仕事と家族
- 【10】: 個人化する消費
- 【11】: 経済と文化(1) 産業と文化
- 【12】: 経済と文化(2) 経済資本・文化資本・社会関係資本
- 【13】: 経済と文化(3) 環境と経済
- 【14】: まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本授業は経済社会学の理論的な枠組みの概説が中心となる。具体的な事例について、日ごろから新聞の経済関連の記事に目を通していくことが理解を深める早道である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加:50% 授業内報告:50%

テキスト / Textbooks

各回の内容に合わせて指示する。

参考文献 / Readings

小熊英二『日本社会のしくみ』講談社 2019

アンソニー・エリオット『デジタル革命の社会学』明石書店 2022

山田陽子『働く人のための感情資本論』青土社 2019

小林盾ほか編『リーディングス・合理的選択理論』勁草書房 2022

園田薫『外国人雇用の産業社会学』有斐閣 2023

今井順『雇用関係と社会的不平等』有斐閣 2021

第2回からの6回分の授業では、上記のうちから1冊を初回に履修者が選んで講読する予定である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙での資料の配布は行いませんので、PCを用意してください。

経済社会学演習

Seminar: Economic sociology
 経済社会学の現在

大倉 季久 (OHKURA SUEHISA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB766
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

経済社会学の基本的な理論と視点に関する理解を前提として、世界的な潮流もふまえながら、経済社会学の近年の新たな展開を、文献講読を通して理解を深める。

To deepen the understanding of recent new developments in economic sociology through reading literature, taking into account not only Japanese but also global trends, Based on an understanding of the basic theory of economic sociology.

授業の内容 / Course Contents

この授業ではまず、経済社会学のアプローチについて、マーク・グラノヴェター (Mark Granovetter) の諸理論を中心に、主に文献講読を通して検討する。グラノヴェターの業績は多岐にわたるが、この授業では最も新しい研究に関する検討から始めて、時間を遡りながら議論を深めていきたいと思っている。そのうえで、経済社会学の理論動向と関連する論文を講読する。

This course examines the approach of economic sociology, focusing on Mark Granovetter's theories, through reading the literature. Granovetter's achievements are diverse, but in this class we would like to start with his recent research and go back in time to deepen the discussion

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 経済社会学の学説史に関するレクチャー
- 【3】: 文献講読とディスカッション
- 【4】: 文献講読とディスカッション
- 【5】: 文献講読とディスカッション
- 【6】: 文献講読とディスカッション
- 【7】: 文献講読とディスカッション
- 【8】: 文献講読とディスカッション
- 【9】: 文献講読とディスカッション
- 【10】: 文献講読とディスカッション
- 【11】: 文献講読とディスカッション
- 【12】: 文献講読とディスカッション
- 【13】: 文献講読とディスカッション
- 【14】: まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

週ごとに指定される文献を必ず読んでくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加:50% 授業内報告(複数回実施する):50%

テキスト / Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考文献 / Readings

マーク・グラノヴェター 『社会と経済』 ミネルヴァ書房 2019

マックス・ウェーバー 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波書店 1989

エミール・デュルケム 『社会分業論』 筑摩書房 2017

ピエール・ブルデュー 『ディスタンクシオン』 藤原書店 2020

そのほか、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業では、社会学の古典と呼ばれる文献を中心に触れていく予定である。その点を理解したうえで履修することを望む。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

紙の資料は配布しませんので、PC を用意してください。

ジェンダー演習

Seminar: Gender Studies
フェミニズムとクィアの政治

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB768
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

フェミニズムやクィアの政治の広がりの中から生まれた研究への理解を深めることを通じて、性をめぐる格差や不平等を研究するための手法を学ぶ。

By acquiring a deeper understanding of research that stems from the spread of feminist and queer politics, students will learn methods to study disparities and inequalities.

授業の内容 / Course Contents

文献講読の授業である。フェミニズムやクィアの政治の視点をふまえた文献を取りあげる。

Students will engage in reading and discussing selected works on theory and qualitative research related to feminist and queer politics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め
- 【2】:受講者の問題関心についての報告
- 【3】:文献講読・ディスカッション①
- 【4】:文献講読・ディスカッション②
- 【5】:文献講読・ディスカッション③
- 【6】:文献講読・ディスカッション④
- 【7】:文献講読・ディスカッション⑤
- 【8】:文献講読・ディスカッション⑥
- 【9】:文献講読・ディスカッション⑦
- 【10】:文献講読・ディスカッション⑧
- 【11】:文献講読・ディスカッション⑨
- 【12】:文献講読・ディスカッション⑩
- 【13】:文献講読・ディスカッション⑪
- 【14】:文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末

その他 / Others

初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、購読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

社会運動論研究

Research: Social Movement Studies

社会運動研究の事例研究

山本 崇記(YAMAMOTO TAKANORI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB769
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

社会運動研究のフロンティアについて、具体的な事例研究を通じて学び、近年の社会現象について考察する力を身につけることを目標とする。

The goal is to learn about the frontiers of social movement studies through concrete case and to acquire the ability to consider recent social phenomena.

授業の内容 / Course Contents

社会運動は 20 世紀末に大きく停滞しているように見えた。それは、冷戦の「終結」や社会主義の「崩壊」が背景にある。しかし、同時に、市民革命を通じたデモクラシーを追求する社会運動は、普遍的な行動原理であり続けている。ただし、マジョリティと言える「強い市民」による社会運動のトレンドを見ているだけでは、正確にはその現象はフォローできないだろう。本授業では、社会運動研究のフロンティアについて、マイノリティによる社会運動の歴史と現在にフォーカスする。具体的に、障害学、フェミニズム、寄せ場研究、クィアスタディーズ、ダイアスポラ・移民研究など、「社会的弱者」とされる人たちの実践に関する研究の蓄積を幅広く取り上げる。社会運動研究の最新の研究成果の中から、受講者の関心に即して、検討対象を定め、考究していく。受講者による報告と全体でのディスカッションを通じて、議論を深めていく。

Social movements seemed to have stagnated significantly at the end of the 20th century. This was due to the "end" of the Cold War and the "collapse" of socialism. However, at the same time, social movements that pursue democracy through civil revolution remain a universal principle of action. However, this phenomenon cannot be accurately followed by just looking at the trends of social movements by "strong citizens" who can be said to be the majority. This lecture will focus on the history and present of social movements by "minorities" in the frontier of social movement studies. Specifically, we will take up a wide range of accumulated research on the practices of people who are considered to be "socially vulnerable," such as disability studies, feminism, homeless studies, queer studies, and diaspora/immigration studies. From the latest research results in social movement studies, we will select and examine the subject of our study according to the interests of the graduates. We will deepen the discussion through reports by the graduates and a general discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション及びテキスト・報告者のスケジュールリング
- 【2】: 輪読及びディスカッション①
- 【3】: 輪読及びディスカッション②
- 【4】: 輪読及びディスカッション③
- 【5】: 輪読及びディスカッション④
- 【6】: 輪読及びディスカッション⑤
- 【7】: 輪読及びディスカッション⑥

- 【8】: 輪読及びディスカッション⑦
- 【9】: 輪読及びディスカッション⑧
- 【10】: 輪読及びディスカッション⑨
- 【11】: 輪読及びディスカッション⑩
- 【12】: 輪読及びディスカッション⑪
- 【13】: 輪読及びディスカッション⑫
- 【14】: 輪読及びディスカッション⑬

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定された文献を読み込んでくること(予習約 2 時間程度)。

授業中に新たにフォーカスされた文献にあたり、より理解を深めること(復習約 2 時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの寄与:30% 担当報告の内容:70%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

社会運動論演習

Seminar: Social Movement Studies
社会運動研究の理論的・方法論的探求

山本 崇記(YAMAMOTO TAKANORI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB770
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・社会運動研究に関する理論的及び方法論的なマッピングができる。
- ・具体的な社会運動現象に適応して、解釈と説明することができる。
- Mapping the theoretical and methodological foundations of social movement research.
- Applying interpretation and explanation to specific social movement phenomena.

授業の内容 / Course Contents

21世紀以降、社会運動研究は再活性化してきている。グローバル化、ネオ・リベラリズム、テロリズム、気候変動、パンデミック、そして、情報技術。世界的な共時性が高まっていく中で、社会運動の様相は国内外で変化している。集合行動からアイデンティティポリティクス。社会変革から自己実現。社会運動研究の射程は広範囲に渡っていることも要因である。また、これまで十分ではなかった歴史的な文脈や生活史的側面を強調する研究も登場している。社会運動研究の古典から現代理論まで、受講生の関心に即して、検討対象を定め、考究していく。受講生による報告とディスカッションを通じて、議論を深めていく。

Since the 21st century, social movement studies has been revitalized. Globalization, neo-liberalism, terrorism, climate change, pandemics, and information technology. As global synchronicity increases, the nature of social movements is changing both domestically and internationally. From collective action to identity politics. From social change to self-realization. The scope of social movement studies is broad, which is also a factor. Research that emphasizes historical context and life history aspects, which have not been sufficient until now, has also appeared. From the classics of social movement studies to contemporary theory, the subject of study will be selected based on the interests of the graduates, and the discussion will be deepened through reports and discussions by the graduates.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション及びテキスト・報告者のスケジュールリング
- 【2】: 輪読及びディスカッション①
- 【3】: 輪読及びディスカッション②
- 【4】: 輪読及びディスカッション③
- 【5】: 輪読及びディスカッション④
- 【6】: 輪読及びディスカッション⑤
- 【7】: 輪読及びディスカッション⑥
- 【8】: 輪読及びディスカッション⑦
- 【9】: 輪読及びディスカッション⑧
- 【10】: 輪読及びディスカッション⑨
- 【11】: 輪読及びディスカッション⑩

【12】: 輪読及びディスカッション⑪

【13】: 輪読及びディスカッション⑫

【14】: 輪読及びディスカッション⑬

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定された文献を読み込んでくること(予習約2時間程度)。

授業中に新たにフォーカスされた文献にあたり、理解を深めること(復習約2時間程度)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの寄与:30% 担当報告のプレゼンテーション:70%

テキスト / Textbooks

講読文献は受講者と相談して決めます。

参考文献 / Readings

社会学特殊研究A

Special Study on Sociology A

メディアの送り手の言説分析:新聞記者を事例に

木下 浩一 (KINOSHITA KOICHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB771
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

メディア研究やジャーナリズム研究の系譜のひとつに、送り手研究がある。

本授業では質的研究のひとつとして、送り手の言説分析を扱う。

目標は、以下の3つである。

- ①送り手の言説を含む資料群を把握する。
- ②送り手の言説分析の基礎を修得する。
- ③送り手の職務や業務(ルーチン)の一部を知る。

One of the genealogies of media and journalism studies is sender studies.

This class focuses on the analysis of sender discourse as qualitative research.

The objectives are as follows:

- (1) To understand the materials related to sender discourse.
- (2) To master the basics of sender discourse analysis.
- (3) To gain an understanding of the work and routines of senders.

授業の内容 / Course Contents

▽本授業は、メディアやジャーナリズムの送り手に興味があり、それらの言説分析の基礎を身につけたい受講生向けの科目である。

▽少人数での開講が予想されるため、演習的に進める可能性が高い。

▼主に扱うのは、新聞記者である。

具体的には、政治記者、経済記者、写真記者、整理記者などである。

▼各参加者が扱う送り手は、ゼミにおいて議論した上で決定する。

*参加した受講生の知識レベルにより、内容を一部変更する場合がある。

This course is designed for students interested in media and journalism senders, and who wish to acquire a basic understanding of discourse analysis.

Since the course is expected to be offered in small groups, it will likely be conducted in the form of a seminar.

The main focus will be on newspaper journalists, including political reporters, economists, photographers, and editors.

Each participant will select a specific sender to focus on, based on seminar discussions.

The content of the seminar may be adjusted depending on the participants' level of knowledge.

*Some content may be adjusted based on the participants' level of knowledge.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 送り手の言説分析の前提: 概史の把握

- ▼大新聞と小新聞
 - ▼政論記者(大記者)と探訪員
 - 【3】:分析の事例①:政治記者
 - 【4】:論考の事例①:政治記者
 - 【5】:新聞記者に関する言説資料
 - ▼現物とデジタル資料
 - ▼国会図書館と協会資料
 - ▼各社の資料
 - 【6】:論考の事例②:経済記者
 - 【7】:参加者による分析と報告①(1~3名程度)
 - ▼新聞記者や他の送り手
 - 【8】:参加者による分析と報告②(1~3名程度)
 - ▼新聞記者や他の送り手
 - 【9】:論考の事例③:写真記者
 - 【10】:参加者による分析と報告③(1~3名程度)
 - ▼新聞記者や他の送り手
 - 【11】:参加者による分析と報告④(1~3名程度)
 - ▼新聞記者や他の送り手
 - 【12】:論考の事例④:整理記者
 - 【13】:送り手研究の観点
 - ▼ルーチンへの着目
 - ▼ランク・アンド・ファイルごとの分析と比較
 - ▼ニュースルームという空間への着目
 - 【14】:総合討議
- もしくは、参加者による分析と報告⑤

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ▼資料については、事前に目を通しておくこと。
- ▼担当回については、レジюме等の資料を用意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習における報告:30% 演習における発言(議論への参加・貢献):30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

木下浩一『新聞記者とニュースルーム:一五〇年の闘いと、妥協』新聞通信調査会 2024 9784907087227
 佐藤卓己『現代メディア史(新版)』岩波書店 2018 9784000289207

社会学特殊研究B

Special Study on Sociology B
言説の社会的分析の基礎

仁平 典宏 (NIHEI NORIHIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB772
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・言説を社会的に分析する上で、いかなる方法的立場があるか理解する
- ・それぞれの方法には、どのような前提と課題があるのか理解する
- ・簡単な計量テキスト分析(テキストマイニング)ができるようになる

The aim of the class is to understand a variety of methodologies in the sociological analysis of discourse, to understand the assumptions and difficulties in each method, and to be able to perform simple quantitative text analysis.

授業の内容 / Course Contents

社会学において言説や文字データを用いた研究は多いが、それが依拠する方法論/理論は、構築主義やフォーコー的言説分析から、概念分析、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっている。その中で、知見の新規性はもちろん、分析の手続きの妥当性や、言説/社会の関係に関する認識論的な前提が厳しく問われることもある。

本授業では、言説を対象とする研究にはどのような方法的立場があり、それぞれいかなる前提と課題を有しているのか、基本的な視座を習得することをめざす。基礎的な文献を講読した上で議論し、部分的にはKH コーダー等を用いたワークも活用しながら理解を深めていきたい。

以上に加えて本年度は、言説を分析する研究環境の悪化にどう対応するか、ということも論点の一つとしたい。具体的には新聞記事を用いたテキストマイニングが、近年各新聞社によって禁止されるようになり、実施が難しくなりつつある。これに対する有効な対応策についてもいくつか提示する。

なお受講者は言説研究の経験者である必要はない。むしろ、初めて言説を用いて修士論文、投稿論文、その他論文等を書く人も含め、本方法論に関する基本的な議論の特徴を理解できるようになることが主な目的である。

It has been produced a lot of sociological studies on discourses, which are based on a variety of theories and methodologies including social constructionism, Foucauldian discourse analysis, and text-mining using natural linguistic processing. Each study can be reviewed not only its originality but also the validity of analytical procedure and the ontological/epistemological assumption about the relationship between discourse and society.

The aim of the class is to gain a basic understanding of what sorts of sociological methodologies of analysis of discourse there are and what presumption and limit each one has. Participants are supposed to read designated texts, to take part in discussions on them actively, and to engage in a trial work.

In addition to the topics mentioned above, we would like to address the challenges posed by the recent decline in research conditions for text mining using newspaper articles, as a result of the ban policies implemented by various newspaper companies. We will also propose effective countermeasures to tackle this issue.

Participants are not required an experience of studying discourses.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 「いじめ」言説はどう変わったか—新聞記事を用いたワーク
- 【3】: 方法論的構築主義をめぐって
- 【4】: 構築主義的研究の実際
- 【5】: 言説と「実態」——統計の位置づけについて
- 【6】: 言説と歴史
- 【7】: 権力と言説1
- 【8】: 権力と言説2
- 【9】: 概念分析について1
- 【10】: 概念分析について2—構築主義的研究との違いに注目して
- 【11】: 計量テキスト分析のロジックと方法
- 【12】: 計量テキスト分析の実際1
- 【13】: 計量テキスト分析の実際2
- 【14】: 総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

担当者以外も検討文献を読み、疑問点や興味深い点について整理しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての報告:40% 毎回の議論への参加:60%

テキスト / Textbooks

初回に連絡する。

参考文献 / Readings

佐藤俊樹・友枝敏雄編 『言説分析の可能性—社会学的方法の迷宮から』 東信堂

スペクター, J.I. & キッセ, M.B. 『社会問題の構築—ラベリング理論を超えて』 マルジュ社

中河伸俊・赤川学編 『方法としての構築主義』 勁草書房

酒井泰斗他編 『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』 ナカニシヤ出版

樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【2版】』 ナカニシヤ出版

仁平典宏 『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』 名古屋大学出版会

その他 / Others

<https://researchmap.jp/nihenori>

社会学特殊研究C

Special Study on Sociology C
メディア史研究の基礎

木下 浩一 (KINOSHITA KOICHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB773
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業が主な対象とするのは、メディアやジャーナリズムの送り手である。

メディア＝形式を軸としながら、送り手を対象とした歴史分析の基礎を身につけるのが、本授業の主な目的である。

The main subject of this class is the senders of media and journalism.

The primary objective of the course is to provide students with the basics of historical analysis, focusing on the senders while using media as the central perspective.

授業の内容 / Course Contents

▼メディアの送り手のうち、事例としてはテレビの送り手を扱う。

具体的には、日本テレビなどの先発局よりも、むしろ後発局であるテレビ朝日などを厚く扱う。

なぜなら、テレビの多様性が急速に高まったのは、後発局の登場以降だからである。

▼送り手、受け手、内容(コンテンツ)、制度などを、どのように分析すればよいのかについて講じる。

▼少人数が予想されるため、演習形式で行う可能性が高い。

*参加した受講生の知識レベルにより、内容を一部変更する場合がある。

Of the media senders, the case study deals with television senders.

Specifically, we deal more heavily with latecomer stations such as TV Asahi, rather than with first-run stations such as NTV.

This is because the diversity of television has increased rapidly since the emergence of latecomer stations.

The lecture will discuss how to analyze the senders, receivers, contents, and institutions of television.

Since a small number of participants are expected, the course will most likely be conducted in the form of exercises.

*Some content may be adjusted based on the participants' level of knowledge.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: メディア史の基礎

▼形式、内容、送り手、受け手、効果

▼制度などの社会的要因

▼相互比較

▼文化研究、カルチュラル・スタディーズ

【3】: 分析の事例①: 外国テレビ映画の吹き替えと声優

【4】: 放送法と番組種別

【5】: 分析の事例②: ニュースショーの誕生

【6】: テレビの送り手に関する資料

- ▼現物とデジタル資料
- ▼NHK と民放各社の資料
- ▼民放連
- 【7】:参加者による分析と報告①(1~2名程度)
 - ▼テレビの送り手
- 【8】:参加者による分析と報告②(1~2名程度)
 - ▼テレビの送り手
- 【9】:日本の民放ネットワークについて
 - ▼キー局と準キー局
 - ▼ネットワークの3形態:番組編成、報道、営業
- 【10】:分析の事例③:関西におけるクイズ番組の繁茂
- 【11】:参加者による分析と報告③(1~2名程度)
 - ▼テレビの送り手
- 【12】:分析の事例④:関西における主婦向け教養番組の興隆
- 【13】:参加者による分析と報告④(1~2名程度)
 - ▼テレビの送り手
- 【14】:総合討議、もしくは参加者による分析と報告⑤(1~2名程度)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ▼資料については、事前に目を通しておくこと。
- ▼担当回については、レジュメ等の資料を用意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習における報告:30% 演習における発言(議論への参加・貢献):30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

木下浩一『テレビから学んだ時代—商業教育局のクイズ・洋画・ニュースショー』世界思想社 2021 9784790717614
 佐藤卓己『現代メディア史(新版)』岩波書店 2018 9784000289207

社会学特殊研究D

Special Study on Sociology D
支援の社会学

佐藤 恵 (SATO KEI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB774
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

困難を抱える当事者とそれをサポートする支援者の経験について、支援と「支え合い」のテーマ(震災復興支援、障害者支援、犯罪被害者支援 等)に関する視点・発想をふまえた上で、具体的事例の検討を通して、理解を深めていきます。なお、関連するテーマとして、以下を設定します。

- * 排除／包摂
- * 排除された人々の抵抗やアイデンティティ・マネジメントとその支援
- * 異質性への対処／異文化共生
- * ボランティア／NPO
- * ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ 等

Students will study party involved and burdened by hardships, as well as benefactor experience from perspective of unilateral and mutual support. Students will deepen their understanding by discussing specific cases.

授業の内容 / Course Contents

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」のテーマ、および関連テーマに関する文献を講読し、基本的な視点・発想を共有した上で、参加者各自が関心を持つ具体的事例についてプレゼンテーションを行い、それをもとにしたディスカッションを通して、互いの問題意識の明確化、社会学的考察の深化を図ります。

Students will read texts on unilateral and mutual support. They will share their basic perspectives and ideas. After that, they will select specific cases they are interested in and make presentations. By participating in subject discussions, they will clarify their issue awareness and deepen their sociological analysis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】: 文献講読とディスカッション(1)
- 【3】: 文献講読とディスカッション(2)
- 【4】: 文献講読とディスカッション(3)
- 【5】: 文献講読とディスカッション(4)
- 【6】: 文献講読とディスカッション(5)
- 【7】: 文献講読とディスカッション(6)
- 【8】: 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(1)
- 【9】: 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(2)
- 【10】: 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(3)
- 【11】: 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(4)
- 【12】: 参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(5)

【13】:参加者によるプレゼンテーション(自由報告)とディスカッション(6)

【14】:まとめ・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

「授業の目標」に記した、支援と「支え合い」を中心とする各テーマについて、自分の関心のある具体的事例を取り上げ、適宜、資料を収集しつつ、各回の授業で学んだ視点・発想を応用する練習をしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献講読、プレゼンテーション:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

崎山・伊藤・佐藤・三井 編 『〈支援〉の社会学:現場に向き合う思考』 青弓社 2008 9784787232915

伊藤智樹 編 『ピア・サポートの社会学:ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』 晃洋書房 2013 9784771024816

佐藤恵 『自立と支援の社会学:阪神大震災とボランティア』 東信堂 2010 9784887139497

天田・渡辺 編 『大震災の生存学』 青弓社 2015 9784787233929

栗原彬 編 『共生の方へ:講座 差別の社会学 第4巻』 弘文堂 1997 4335501544

奥村隆 『他者という技法:コミュニケーションの社会学』 日本評論社 1998 4535560684

梶原景昭 他 『異文化の共存:岩波講座 文化人類学 第8巻』 岩波書店 1997 4000107488

上記以外にも、授業中に随時、紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材 PDF の配布や連絡事項のお知らせ等に「Canvas LMS」を使用します。

教材については、プリントアウトして教室に持参していただくか、あるいはプリントアウトはしなくてもお手元の PC、タブレット、スマホなどの端末で授業中に教材を見られるようにしておいてください。

社会学特殊研究E

Special Study on Sociology E

後期近代における社会心性を考える

土井 隆義 (DOI TAKAYOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB775
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代の日本では、いわゆる「モノ消費」から「コミュニケーション消費」への移行が、急激に進行しています。また「包摂型の社会」から「排除型の社会」への移行が加速しているともいわれます。その諸相を支える社会心性と、その社会的背景について、社会学の概念を応用しながら検討していきます。

In modern Japan, we are moving rapidly from object to communication consumption. We can also say that society is moving from inclusion to exclusion. Students will apply sociology concepts when discussing social contexts and psychologies that have supported these phenomena.

授業の内容 / Course Contents

最初に、現代の社会統制における諸問題について、ジョック・ヤングの『排除型社会』の講読を行ないつつ、後期近代という観点から論点整理とその社会学的含意の検討を行ないます。次に、現代の日本で進行しつつある特徴的な諸現象について、後期近代に関する様々な文献を参照にしつつ、また具体的な事例を素材として取り上げながら、その社会学的含意を検討していきます。履修学生には、文献の報告を行なうだけでなく、具体的な社会現象を取り上げて独自に調査し、その内容について報告することが求められます。

First, students will read Jock Young's The Exclusive Society, which discusses various problems in governing modern society. Students will organize their arguments from late modern-age perspective and discuss their sociological significances. Next, students will refer to various literatures about the late modern-age to study unique phenomena taking place in modern Japan. Students will select specific cases as materials and discuss their sociological significances. Students will not only make literature reports, they will also select and research specific social phenomena, and create reports on their findings.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 共通文献の輪読をおこなう(1)
- 【2】: 共通文献の輪読をおこなう(2)
- 【3】: 共通文献の輪読をおこなう(3)
- 【4】: 共通文献の輪読をおこなう(4)
- 【5】: 各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する(1)
- 【6】: 各自が関心のある社会現象を選択し、その概要について報告する(2)
- 【7】: 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(1)
- 【8】: 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(2)
- 【9】: 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(3)
- 【10】: 選択した社会現象を分析するために、必要と思われる文献の概要を報告する(4)
- 【11】: 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(1)

- 【12】: 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(2)
 【13】: 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(3)
 【14】: 選択した社会現象を社会学的に分析し、その結果について報告する(4)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で自分が取り上げる社会現象について、予め選択し、調査を開始しておくことが望ましいでしょう。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 輪読における報告内容:20% 選択テーマの報告内容:20% 個別文官の報告内容:20% 研究成果の報告内容:20% 討論への参加度:20%

テキスト / Textbooks

ジョック・ヤング 『排除型社会』 洛北出版 2007 9784903127040

参考文献 / Readings

ジョック・ヤング 『後期近代の眩暈』 青土社 2016

デボラ・チェンバース 『友情化する社会』 岩波書店 2015

アンソニー・ギデンズ 『モダニティと自己アイデンティティ―後期近代における自己と社会』 ハーベスト社 2005

ジークムント・バウマン 『リキッド・モダニティ』 大月書店 2001 4272430572

ウルリヒ・ベック 『危険社会』 法政大学出版局 1998

アンディ・ファーロン／フレッド・カートメル 『若者と社会変容』 大月書店 2009

土井隆義 『少年犯罪(減少)のパラドクス』 岩波書店 2012

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会現象を抽象化し、論理を組み立てて議論する能力

社会学特殊研究F

Special Study on Sociology F

社会運動のパブリックヒストリー実践:環境運動の経験から学ぶ社会のつくり方

松村 正治 (MATSUMURA MASA HARU)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	MB776
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC6020
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・望ましい社会や環境をつくるために、運動の実践者や当事者の話から何を学べるのかを考えるとともに、その運動経験をどのように編集して発信すればよいのかを提案できるようになること。
- ・研究する者(自分)の立場性や研究する際の視点について、批判的に(自省的に)考えられるようになること。
- ・In order to create a desirable society and environment, students should be able to think about what they can learn from the narratives of activists and those involved in the movement, and to suggest how to edit and disseminate their experiences.
- ・To be able to think critically (self-reflectively) about the positionality of the researcher and the viewpoint of research.

授業の内容 / Course Contents

社会運動・環境運動の個別具体的な事例や経験を踏まえて、今後の環境や社会のあり方について考える歴史実践の機会とします。

資料としては、運動の実践者や当事者が多様に実践・表現してきた経験を語った録画映像を用います。

資料をテキスト化して共有したうえで論点を整理し、運動の経験から学べることについて議論します。

最終的には、人びとに経験された社会運動の歴史から、今後の社会の作り方を考える教材づくりをめざします。

Based on specific examples and experiences of social and environmental movements, this will be an opportunity for doing public history to think about the future of the environment and society.

As materials, we use recorded videos of various experiences of activists and others in the movement.

We will discuss what we can learn from the experience of the movement by summarizing and sharing the material.

In the end, we aim to create educational materials to consider how to create a future society based on the history of social movements experienced by people.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・授業計画の検討
- 【2】: 研究する者の立場性/位置性(ポジションナリティ)
- 【3】: 公共社会学という方法: いかにか社会規範は語れるのか
- 【4】: パブリックヒストリーという歴史実践
- 【5】: 社会運動の語りをもとにした討論(1)
- 【6】: 社会運動の語りをもとにした討論(2)
- 【7】: 社会運動の語りをもとにした討論(3)
- 【8】: 社会運動の語りをもとにした討論(4)
- 【9】: ゲストスピーカーとの対話
- 【10】: 運動経験を社会構想に生かすための討論(1)

- 【11】: 運動経験を社会構想に生かすための討論(2)
- 【12】: 環境運動のパブリックヒストリーの教材制作(1)
- 【13】: 環境運動のパブリックヒストリーの教材制作(2)
- 【14】: 総合討論・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

担当する録画映像をテキスト化し、議論すべきポイント(論点)を整理し、それに対する自分の考えをまとめておいてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点:100%

テキスト / Textbooks

見田宗介 『現代社会の理論－情報化・消費化社会の現在と未来』 岩波書店 1996 9784004304654

参考文献 / Readings

濱西 栄司ほか 『問いからはじめる社会運動論』 有斐閣 2020 9784641150775

大野光明ほか編 『運動史とは何か(社会運動史研究)』 新曜社 2019 9784788516090

菅豊・北條勝貴編 『パブリック・ヒストリー入門:開かれた歴史学への挑戦』 勉誠出版 2019 9784585822547

金子勇ほか編 『環境と運動(シリーズ・現代社会学の継承と発展)』 ミネルヴァ書房 2024 9784623096763

清水万由子ほか編 『公害の経験を未来につなぐ:教育・フォーラム・アーカイブズを通じた公害資料館の挑戦』 ナカニシヤ出版 2023 9784779517235

永野三智 『みな、やっとの思いで坂をのぼる:水俣病患者相談のいま』 ころから 2018 9784907239282

上間陽子 『海をあげる』 筑摩書房 2020 9784480815583

社会学基礎論

Foundations of Sociology

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「社会学基礎論」と合同授業。 他研究科生履修不可。		

授業の目標 / Course Objectives

大学院レベルでの社会学的研究に必要な理論的基礎について理解を深める。理論的研究を志す学生はもちろんのこと、経験的研究を志す学生にとっても、各自の研究を理論的に定位することができるようにする。あわせて研究倫理についても研修する。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

The objective of this course is to introduce students to basic understanding of sociological theories required at the graduate level. It enables those who address empirical research, as well as those interested in theoretical issues, to consider individual study theoretically. The course also gives instruction on research ethics.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、市民革命と産業革命を背景として、18世紀末から19世紀初頭にヨーロッパにおいて形成され、20世紀に入って、米国で著しい発展をみた。この授業では、草創期の社会学(サンシモン、コント、スペンサー)の概要を理解したうえで、闘争理論(マルクス)、社会学的実証主義(デュルケム)、相互作用論(ジンメル)、理解社会学(ヴェーバー)など19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学の展開を追うとともに、米国における社会学理論の発展を、シカゴ学派、構造機能主義、コロンビア学派の計量研究の3つの系譜によって整理する。

Sociology was shaped during the late 18th and early 19th centuries with bourgeois and industrial revolutions as backdrop and has prominently developed in the 20th century in the US. This course introduces students to sociological thoughts in the early days (Saint-Simon, August Comte, and Herbert Spencer), followed by conflict theory (Karl Marx), interactionism (Georg Simmel), and interpretive sociology (Max Weber) developed during the 19th and early 20th centuries in Europe, and describes trends of American sociology in the 20th century focusing on the Chicago School, structural functionalism, and the Columbia School of Quantitative Sociology; all three are the starting points of contemporary sociology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 草創期の社会学: サンシモン、コント、スペンサー
- 【3】: 闘争理論の源流: カール・マルクス
- 【4】: 社会学的実証主義: エミール・デュルケム
- 【5】: 相互作用と社会化の諸形式: ゲオルク・ジンメル
- 【6】: 討論: マルクス、デュルケム、ジンメル
- 【7】: 都市と社会改革: ロバート・パークとシカゴ学派
- 【8】: 理解社会学: マックス・ヴェーバー
- 【9】: 構造機能主義(1): タルコット・パーソンズ
- 【10】: 討論: シカゴ学派、ヴェーバー、パーソンズ

- 【11】: 構造機能主義(2): マートン(スメルサー)
- 【12】: 計量社会学: ラザースフェルドとコロンビア学派
- 【13】: 批判理論: 実証主義論争
- 【14】: 討論: マートン、ラザースフェルド、アドルノ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リーディング・アサインメントにもとづく小レポート課題を授業期間中 10 回課す。また、討論の回までにそれまでの講義内容を復習し、疑問点を整理しておくこと。授業期間中に、JSPS 研究倫理 e ラーニングコースを修了すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート 10 回分:70% 授業へのリアクション:30%

eL CoRE (JSPS 研究倫理 e ラーニングコース)を修了していない場合は、成績評価の対象としない。

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

授業時にレジュメを配布する。リーディング・アサインメントの教材は Canvas LMS 上でも利用できる。

参考文献 / Readings

- C.W.ミルズ『社会学的想像力』筑摩書房 2017年 4480097813
 - マルクス=エンゲルス『共産党宣言 共産主義の原理』大月書店 1952年
 - デュルケム『社会学的方法の規準』岩波書店 1978年 4003421434
 - 松本康編『都市社会学セレクション1 近代アーバニズム』日本評論社 2011年 453558592
 - マックス・ヴェーバー『社会学の根本概念』岩波書店 1972年 4003420969
 - タルコット・パーソンズ『社会体系論』青木書店 1974年 425074017
 - ロバート・K・マートン『社会理論と社会構造』みすず書房 1961年 4622017059
 - 8. ラザースフェルド他『ピープルズ・チョイス』芦書房、1987年
 - 9. ハーバート・ブルーマー『シンボリック相互作用論』勁草書房、1991年
 - 10. テオドール・W・アドルノ(著), カール・ポパー『社会科学の論理 新装版: ドイツ社会学における実証主義論争』
- 翻訳については、他の版を使用してもかまわないし、外国語訳を使用してもかまわない。入手不可能なものは、図書館を利用すること。詳細は第1回目に指示する。

その他 / Others

小レポート及び eL CoRE 修了証の提出は原則として Canvas LMS を使用する。

現代社会学理論

Modern Sociological Theory

社会思想史を現在的視点から読み直す

片上 平二郎 (KATAKAMI HEIJIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「現代社会学理論」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

講読によって現代社会学理論の潮流を知る。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

This course purposes is to learn about the current trends in contemporary sociological theory by reading texts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は現代社会学理論の潮流を知るために、理論的文献を読んでいく授業である。今期は社会思想史のテキストを読んでいき、近代的な社会理論の背景となる基本的な視座を学んでいく。

発表は、原則的に文章化したレジュメを用意してもらうかたちとなる。

The course is composed of readings and discussions. Students learn the current trends in contemporary sociological theory through the reading of sociological texts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献講読
- 【3】: 文献講読
- 【4】: 文献講読
- 【5】: 文献講読
- 【6】: 文献講読
- 【7】: 文献講読
- 【8】: 文献講読
- 【9】: 文献講読
- 【10】: 文献講読
- 【11】: 文献講読
- 【12】: 文献講読
- 【13】: 文献講読
- 【14】: 文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読の授業であるため、予習として、参加者全員がテキストの該当部を毎回事前に読んでいることを前提として授業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と討論:100%

前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

城塚登 『社会思想史講義』 筑摩書房 2024 4480511997

城塚登 『近代社会思想史』 東京大学出版会 1960 9784130120074

上野修 『哲学者たちのワンダーランド [改版]: デカルト・スピノザ・ホッブズ・ライプニッツ』 NHK 出版 2024
9784140912911

國分功一郎 『近代政治哲学 ——自然・主権・行政』 筑摩書房 2015 4480068201

重田園江 『社会契約論 ——ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』 筑摩書房 2013 4480067426

上述にあげたものはあくまで候補であり、実際には受講生との相談の上、読んでいく書物を決めたい。また、テキストに付随し、関連した文献を読むこともある。

参考文献 / Readings

奥村隆編 『戦後日本の社会意識論 -- ある社会学的想像力の系譜』 有斐閣 2023 9784641174900

相互行為論

Social Interaction

相互行為論の基本的な考え方・分析の態度

是永 論 (KORENAGA RON)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX103
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「相互行為論」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

社会学における相互行為論の基本的な考え方を理解し、事例分析の能力を習得する。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

This course aims to study social interaction in sociology and acquire skills to analyse data.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、従来の社会学におけるアプローチに加えて、E.ゴフマンの著作およびエスノメソドロジーの視点から、相互行為の分析方法について検討する。データに志向した研究の方法について検討するために、履修者自身が企画するデータセッションを行う。

In addition to conventional sociological approaches, this course will accord students the methods to analyse social interaction from the viewpoint of E.Goffman's works and ethnomethodology. Students will also have to conduct data-sessions by themselves to consider data-oriented methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献の報告・事例の検討
- 【3】: 文献の報告・事例の検討
- 【4】: 文献の報告・事例の検討
- 【5】: 文献の報告・事例の検討
- 【6】: 文献の報告・事例の検討
- 【7】: 文献の報告・事例の検討
- 【8】: データ・セッション
- 【9】: データ・セッション
- 【10】: データ・セッション
- 【11】: データ・セッション
- 【12】: データ・セッション
- 【13】: データ・セッション
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

該当文献を精読し、論点・疑問点を整理して、授業に参加すること。その他必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加の積極性:50% 報告・発表内容(事例分析にかかわる高水準の報告を含む):50%
すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山崎敬一ほか編 『エスノメソドロジー・会話分析ハンドブック』 新曜社 2023 9784788517943

授業時に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会学の基礎的な知識

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教材の共有や資料提示等はすべてオンラインでおこなうため、スクリーンに投映出来る機能をもったパソコンを準備してください。

その他 / Others

研究室 HP <http://www.rikkyo.ne.jp/web/ronkore/>

社会階層論

Social Stratification
格差と不平等の社会学

永吉 希久子 (NAGAYOSHI KIKUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「社会階層論」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目的は、社会階層研究の日本語・英語の文献を通して、出身階層やジェンダー、人種、国籍などによる格差がどのように生じているのかについて考えるための土台となる知識を身につけ、議論できるようになることにある。学生は割り当てられた文献のレビューを行い、コメントをつけてプレゼンを行うこと、またそのプレゼンに対しディスカッションを行うことが求められる。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

This seminar aims to provide students with foundational knowledge for thinking about and discussing how inequality arises based on class, gender, race/ethnicity, and nationality through the Japanese and English literature on the study of social stratification. Students will be required to review the assigned literature and make a presentation with comments. Following the report by the student in charge, all students will engage in a discussion.

授業の内容 / Course Contents

授業では初回に担当を割り振り、担当回の学生は、予め社会階層に関するテキストの指定範囲、もしくは指定した日本語・英語論文のレビューを行い、授業で報告する。この報告を通し、社会階層と不平等研究の基本的な概念や理論的な枠組みの知識を身につけることが期待される。

In the first session of the class, students will be assigned a literature review. The student in charge of the assigned session will review a specified range of texts or a selected Japanese/English article on social stratification and report it in class. Through these reports, students are expected to acquire knowledge of the basic concepts and theoretical frameworks of social stratification and inequality research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション・分担の割り当て
- 【2】: 文献購読・ディスカッション
- 【3】: 文献購読・ディスカッション
- 【4】: 文献購読・ディスカッション
- 【5】: 文献購読・ディスカッション
- 【6】: 文献購読・ディスカッション
- 【7】: 文献購読・ディスカッション
- 【8】: 文献購読・ディスカッション
- 【9】: 文献購読・ディスカッション
- 【10】: 文献購読・ディスカッション
- 【11】: 文献購読・ディスカッション
- 【12】: 文献購読・ディスカッション

【13】: 文献購読・ディスカッション

【14】: 文献購読・ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定文献は予め目を通しておくこと。発表担当者はレジユメを用意する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当回での報告:60% 授業への貢献(発言など):20% コメントシート:20%

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Grusky, D. B. Social Stratification: Class, Race and Gender in Sociological Perspective, Fourth Edition Routledge
2014 9780813346717

初回の授業で案内する

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

授業で扱う論文では高度な統計的手法が用いられている可能性があるが、そうした分析手法に関する予備的知識は要しない。

その他 / Others

初回到授業の方針を説明し、割り当ても行うので、履修希望者は必ず出席すること。

ジェンダーとセクシュアリティ

Gender and Sexuality

ジェンダー／セクシュアリティの社会学

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX105
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「ジェンダーとセクシュアリティ」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

社会学におけるジェンダー／セクシュアリティ研究の基本的な考え方、方法、着眼点などを学び、それらを各自の研究に活かせるようになる。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

Students will learn the fundamental concepts, methods, and perspectives of gender and sexuality studies in sociology and apply this knowledge in their own research.

授業の内容 / Course Contents

文献講読の授業である。ジェンダーとセクシュアリティに関する社会学的な文献を取りあげる。

Students will engage in reading and discussing basic studies on the sociology of gender and sexuality.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション、講読する文献の紹介、担当決め
- [2]: 受講者の問題関心についての報告
- [3]: 文献講読・ディスカッション①
- [4]: 文献講読・ディスカッション②
- [5]: 文献講読・ディスカッション③
- [6]: 文献講読・ディスカッション④
- [7]: 文献講読・ディスカッション⑤
- [8]: 文献講読・ディスカッション⑥
- [9]: 文献講読・ディスカッション⑦
- [10]: 文献講読・ディスカッション⑧
- [11]: 文献講読・ディスカッション⑨
- [12]: 文献講読・ディスカッション⑩
- [13]: 文献講読・ディスカッション⑪
- [14]: 文献講読・ディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読する文献を読んだうえで論点や疑問点を整理して授業に臨むこと。報告者は、報告用の資料を作成し、事前に共有すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:50% 議論への貢献:50%

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC ないしモバイル端末

その他 / Others

初回の授業で、講読文献の候補を複数提示する。受講希望者と相談のうえ、購読文献を決定する。受講者からの提案も歓迎する。

人種とエスニシティ

Race and Ethnicity

人種・エスニシティをめぐる社会学(人類学)理論を学ぶ

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「人種とエスニシティ」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

教科書と具体的な事例分析を通じ、人種とエスニシティをめぐる論点についてより掘り下げた理解を深め、各自の博士論文に活かすことができる視座を発見することを、本授業の目標とする。
前期課程よりも高度な知識・スキルを身に身に付けることを目標とする。
Students will deepen their understanding of arguments about human race and ethnicity by analyzing specific cases and studying textbooks. Students will aim to discover perspective useful for their master theses.

授業の内容 / Course Contents

履修者の博士論文の主題と人数に応じて、適切な数と内容の論文を取り上げ、グローバル化をめぐる社会学・人類学の主要な理論について掘り下げて学んでいく。
Professor will select suitable and enough theses depending on students' master thesis subjects and number of students. Students will dig deeper into major sociology and anthropology theories surrounding globalization.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 1
- 【3】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 2
- 【4】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 3
- 【5】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 4
- 【6】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 5
- 【7】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 6
- 【8】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 7
- 【9】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 8
- 【10】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 9
- 【11】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 10
- 【12】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 11
- 【13】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 12
- 【14】: 文献講読＋グループ・ディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="checkbox"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・毎回の授業の前に、その回で扱う部分の教科書の内容について、あらかじめ目を通しておくこと。
- ・履修者の希望等に応じて、履修者の論文進捗状況の報告や、外部者による講演を実施することもある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容・ディスカッションへの貢献度によって、総合的に評価する:100%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

初回授業で履修者の専門を確認のうえ、指定する。

参考文献 / Readings

適宜、授業のなかで提示していく。

社会老年学

Social Gerontology

安藤 孝敏 (ANDO TAKATOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX107
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「社会老年学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

「高齢社会における高齢者」の理解を中心に据え、社会老年学とはどういう学問であるのかを、自分の博士論文計画と関連させて理解し、それを口頭報告及びレポートで表現できるようになること。

Students will focus on understanding senior citizens living in aging society. Students will understand social gerontology by linking it with their doctoral thesis plans and be able to express this in oral reports and research reports.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、社会老年学の最新の文献から、受講者が興味・関心のある文献を選んで発表し、その内容についてディスカッションする形式で進める。発表する文献は事前に配布し、当日はその文献の内容をまとめたレジюмеなどを用意する。発表する文献は受講者と協議して決定する。

In this class, students will select and present articles that they are interested in from the latest literature on social gerontology, and proceed in a format in which they discuss the content. Papers to be presented will be distributed in advance, and a resume summarizing the contents of the papers will be prepared on the day. The literature to be presented will be decided in consultation with the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 文献の発表とディスカッション
- 【3】: 文献の発表とディスカッション
- 【4】: 文献の発表とディスカッション
- 【5】: 文献の発表とディスカッション
- 【6】: 文献の発表とディスカッション
- 【7】: 文献の発表とディスカッション
- 【8】: 文献の発表とディスカッション
- 【9】: 文献の発表とディスカッション
- 【10】: 文献の発表とディスカッション
- 【11】: 文献の発表とディスカッション
- 【12】: 文献の発表とディスカッション
- 【13】: 文献の発表とディスカッション
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

ディスカッションでは積極的な参加が期待される。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表に基づきディスカッションを行うので、発表者は前もって議論すべき論点を整理してくること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表資料の準備と発表内容:60% ディスカッションへの参加度:40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

使用しない。関係資料など適宜、提供する。

参考文献 / Readings

授業内で適時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に PC を持参すること。

その他 / Others

後期課程の学生は授業でのディスカッションをリードできるよう、積極的に参加すること。

家族社会学

Sociology of Family

「家族の多様化」を考える。(Considering the "Diversification of Family".)

近兼 路子 (CHIKAKANE MICHIKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX108
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「家族社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、家族と親密な関係についての国内外の文献を講読し、ディスカッションすることで、「家族の多様化」のあり方を理解、分析するための理論を習得した上で、後期課程では、これらの理論を現代の家族をめぐる問題の分析・考察に応用する力を身につけることを目標とする。

Through a review and discussion of national and international literature on families and intimate relationships, students in the doctoral course will learn theories for understanding and analyzing the nature of the "Diversification of Family" and will be able to apply these theories to the analysis and consideration of contemporary issues surrounding the family.

授業の内容 / Course Contents

近年、欧米先進諸国を中心として「家族の多様化」が注目を集めており、国内外の家族研究ではその現状を捉えるための理論研究が活性化している。またフェミニズムやクィア理論、政治哲学など他分野の知見の導入も進んでおり、現代の家族研究はこうした動向を知ることをなしに理解することは難しい。

本講義では、こうした近年の国内外の家族研究の動向を学ぶ。具体的には、研究動向に関する文献や、現代家族の状況に関する質的研究の文献を講読し、ディスカッションする。

In recent years, "Diversification of Family" has attracted much attention, particularly in Europe and the United States. Theoretical studies to grasp the current situation have flourished in domestic and international family studies. In addition, the field of contemporary family studies has begun to actively introduce knowledge from other fields, such as feminism, queer theory, and political philosophy. It is difficult to understand contemporary family studies without being aware of these trends.

In this lecture, students will learn about these recent domestic and international trends in family research, with a specific focus on reviewing and discussing the literature on research trends and qualitative research on contemporary family situations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 文献の選定と割り当て
- 【2】: 文献講読とディスカッション 1
- 【3】: 文献講読とディスカッション 2
- 【4】: 文献講読とディスカッション 3
- 【5】: 文献講読とディスカッション 4
- 【6】: 文献講読とディスカッション 5
- 【7】: 文献講読とディスカッション 6
- 【8】: 文献講読とディスカッション 7

- 【9】: 文献講読とディスカッション 8
- 【10】: 文献講読とディスカッション 9
- 【11】: 文献講読とディスカッション 10
- 【12】: 文献講読とディスカッション 11
- 【13】: 文献講読とディスカッション 12
- 【14】: 文献講読とディスカッション 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告担当者はレジメを作成し、事前に共有すること。各回の講義で取り上げる文献は、必ず報告者以外も読み、質問、コメントなどを整理した上で授業に参加すること(2時間)。また、授業での議論を踏まえ、関連文献を読み、知見を深めること(2時間)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:50% 出席、議論の参加:50%

全ての評価方法において、博士課程前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

Deborah Chambers & Pablo Gracia A Sociology of Family Life Polity 2021 9781509541355

講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

講読文献は、受講者の関心も踏まえて初回に提示する。初回に文献の紹介と割り当てを行うので、履修希望者は、初回の講義には必ず出席すること。

宗教社会学

Sociology of Religion

宗教社会学の入門(*なお、大学院には「[基礎科目としての]宗教社会学[この科目]」「宗教社会学演習」「宗教社会学研究」の3科目があるので注意すること)

小池 靖(KOIKE YASUSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX109
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「宗教社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

現代的な宗教社会学の基礎文献の輪読を通じて、宗教と社会の現在について考察する。博士後期課程学生については、より高い達成水準を期待したい。

Through a circular reading of the basic literature of contemporary sociology of religion, the course will examine the present state of religion and society. For doctoral students, a higher level of achievement is expected.

授業の内容 / Course Contents

草創期の社会学では、宗教とは、消えゆく前近代の秩序を代表するものであり、それゆえに社会学の関心の中心にあった。このクラスでは、基礎科目として、現代社会における宗教を社会学的にどうとらえるのかということ、輪読やディスカッションによって検討する。映像資料を見る回も設ける。

In pioneering sociology, religion represented a vanishing pre-modern order and was therefore central to sociological concerns. In this class, as a foundational course, we will examine how religion in contemporary society is viewed sociologically through readings and discussions. There will also be times to view video materials.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 学生による発表1
- 【3】: 学生による発表2
- 【4】: 学生による発表3
- 【5】: 映像資料1
- 【6】: 輪読1
- 【7】: 輪読2
- 【8】: 輪読3
- 【9】: 映像資料2
- 【10】: 輪読4
- 【11】: 輪読5
- 【12】: 輪読6
- 【13】: 映像資料3
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献・論文の読み込み等。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:50% 発表以外の要素(授業への貢献、レポートなどの提出物):50%

博士後期課程学生には、前期課程学生の模範となるようなコミットメントを期待したい。

テキスト / Textbooks

随時指示する。

参考文献 / Readings

Adam Possamai The i-zation of Society, Religion, and Neoliberal Post-Secularism Palgrave Macmillan 2017

Adam Possamai Sociology of Religion for Generations X and Y Routledge 2009

メレディス・B・マクガイア 『宗教社会学:宗教と社会のダイナミクス』 明石書店 2008

その他 / Others

その他の諸注意:

<https://ykoike.hatenablog.com/entry/2018/09/12/232738>

政治社会学

Political Sociology

食と農の社会運動:北東アジアの中で考える

安藤 丈将 (ANDO TAKEMASA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX110
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「政治社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、食と農の社会運動について学びます。近年、食べ物の生産、流通、消費のあり方を改善させることで、社会の変革を目指す活動に研究者の注目が集まるようになりました。具体的には、CSA(地域支援型農業)、ファーマーズ・マーケット、コミュニティ・ファーム、生協等の食と農に関わる地域を中心とする活動は、今日では世界各地に広がっています。

これらの活動はいかなる文脈で出現し、食・農と社会変革をどう接続し、いかなる影響を及ぼしているのでしょうか。この授業では、社会運動論やフード・スタディーズの成果をもとにしながら、これらの問いをを社会学的に考察し、応用的な議論へと発展させることを目指します。特に授業の後半では、北東アジアの文脈に即しながら、食と農の社会運動をより身近な事柄として理解するように努めます。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とします。

This course will study social movements related to food and agriculture. In recent years, researchers have increasingly focused on activities aimed at transforming society by improving the production, distribution, and consumption of food. Specifically, community-based initiatives related to food and agriculture, such as Community Supported Agriculture (CSA), farmers' markets, community farms, and food cooperatives, have spread worldwide.

Why have these activities emerged in specific contexts, how do they connect food and agriculture to social change, and what impacts do they have? Drawing on the findings of social movement theories and food studies, this course will explore these questions sociologically and aim to develop applied discussions. In the latter half of the course, we will focus on the context of Northeast Asia to understand social movements in food and agriculture as more relatable and tangible issues to us.

授業の内容 / Course Contents

授業では、食と農の社会運動を検討してきます。前半はこのテーマに関する理論的な研究、後半は北東アジアの各地域(主に 日本、台湾、香港)の事例を扱います。各回の授業では、書籍の 1 章、または論文 1 本程度の共通テキスト(主に日本語、時に 英語)を設定し、内容を確認しながら、受講生と議論をしていきます。

This course will examine social movements related to food and agriculture. In the first half, we will focus on theoretical studies on this theme. In the second half, we will explore case studies from various regions in Northeast Asia, primarily Japan, Taiwan, and Hong Kong. Each session will feature a common text, such as a chapter from a book or an academic article (mainly in Japanese, occasionally in English), which we will review and discuss with the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 食と農の資本主義化

【3】: フード・アクティビズムと都市の再生

- 【4】:フード・シティズンと「総百姓モデル」
- 【5】:農をケアワークとして考える
- 【6】:ネオリベラリズムとの関連
- 【7】:食料主権とトランスナショナルな農民運動
- 【8】:台湾①:開発と社区総体营造
- 【9】:台湾②:土地正義から農芸復興へ
- 【10】:香港①:高速鉄道と有機農業
- 【11】:香港②:本土主義と農(の不在)
- 【12】:日本①:産消提携と公害問題
- 【13】:日本②:学校給食と権利としての食
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストのレジュメ担当者は、箇所の内容を講読し、レジュメ資料を作成します。それ以外の受講生も、テキスト該当箇所を講読し、重要な論点をおさえたうえで授業に臨むようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の議論の参加:50% レジュメ発表:50%

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

安藤文将『香港を耕す一農による自由と民主化運動』岩波書店 2024

産業・労働社会学

Sociology of Work

李 ミン珍 (LEE MINJIN)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	- (履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「産業・労働社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

近年の産業・労働社会学分野における諸研究で展開されている諸議論を検討し、理解するとともに将来の研究者としての専門性を高める。

Students will review and understand the latest studies as well as classical ones of the industrial and labor sociology.

授業の内容 / Course Contents

産業・労働社会学において議論されている諸テーマ、すなわち雇用形態・就業形態の多様化(非典型雇用、雇用関係によらない働き方(独立請負、フリーランスやギグワークなど))、労働市場における流動性と転職、働き方における柔軟性、長時間労働とワーク・ライフ・バランス問題、仕事の自律性と裁量労働、成果主義とモチベーション、サービス労働、感情労働、仕事におけるジェンダー不平等問題、若者の労働志向、外国人労働者、非正規労働者の労働運動、社会運動ユニオニズムなどについて議論し、理解を深める。授業では、これらのテーマに関する諸文献を講読し、議論する。講読文献は、初回で参加者と相談して決める。

Studies of the industrial and labor sociology have dealt with many topics, for example, motivation to work, autonomy and control at work, internal labor market system, industrial relations, emotional labor, irregular types of employment, performance-based pay system, flexible work system, overwork problem and work-life balance, gender inequality at work, foreign workers problem, social movement unionism and so on. Students will read and discuss studies which examines some of above-mentioned topics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction: 講読文献の紹介
- 【2】: 文献講読及びディスカッション
- 【3】: 文献講読及びディスカッション
- 【4】: 文献講読及びディスカッション
- 【5】: 文献講読及びディスカッション
- 【6】: 文献講読及びディスカッション
- 【7】: 文献講読及びディスカッション
- 【8】: 文献講読及びディスカッション
- 【9】: 文献講読及びディスカッション
- 【10】: 文献講読及びディスカッション
- 【11】: 文献講読及びディスカッション
- 【12】: 受講生の研究発表
- 【13】: 受講生の研究発表
- 【14】: 講読諸文献に関する総括ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で講読予定の文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 授業内発表:50% 研究発表:20%

いずれの評価項目についても博士前期課程よりも高い達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

初回で提示する。

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

都市社会学

Urban Sociology

高木 恒一 (TAKAGI KOICHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX112
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「都市社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

社会学の学びを前提として、大学院レベルでの都市社会学に関する視座・理論・方法についての知識を高いレベルで取得すること。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

The purpose of this course is to introduce key concepts of urban sociology and to examine contemporary urban issues.

授業の内容 / Course Contents

都市社会学の基本的な視座・理論・方法について、講義および基礎的文献の講読を通して学ぶとともに、ディスカッションなどを通して、都市社会学および現代都市の問題への理解を深めていく。授業の内容については受講者の数、学習レベル、希望などを踏まえて変更することがある。

The course will discuss basic concepts of urban sociology to understand urban society and urban life. Also, this course will read articles related to contemporary urban issues.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: 講義(1) シカゴ学派の視点その1
- [3]: 講義(2) シカゴ学派の視点その2
- [4]: 講義(3) シカゴ学派の方法
- [5]: 文献講読とディスカッション(1)
- [6]: 文献講読とディスカッション(2)
- [7]: 文献講読とディスカッション(3)
- [8]: 講義(4) 新都市社会学の視点
- [9]: 講義(5) 新都市社会学以降の展開
- [10]: 文献講読とディスカッション(4)
- [11]: 文献講読とディスカッション(5)
- [12]: 文献講読とディスカッション(6)
- [13]: 講義(6) 日本の都市社会学の展開
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献のほか、必要な都市社会学およびその周辺領域の文献を積極的に講読すること。また、授業のディスカッションに積極的参加して、発言することを強く求める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加状況および中間レポートの総合評価:100%

前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

初回の授業時に、受講生の状況および希望を勘案して決定する。基本的には日本語文献を選択する予定であるが、場合によっては英語文献とすることもありうる。

参考文献 / Readings

松本康編 『都市社会学・入門(改訂版)』 有斐閣 2022 9784641220157

環境社会学

Environmental Sociology
環境社会学の理論と実践

関 礼子 (SEKI REIKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX113
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「環境社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

環境社会学の基礎的な理論を学ぶとともに、フィールドからの理論形成と問題解決への貢献という姿勢について理解する。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

In this course, graduate students will learn the basic theories of environmental sociology and understand the attitude of theory making from the field survey to contribute to solving problems.

授業の内容 / Course Contents

社会問題としての環境問題は多岐にわたる。環境問題のメカニズムや問題構造を捉え、問題解決の方向性を導き出す環境社会学の視点を学ぶ。

Environmental issues as the social problem range widely. In this course, graduate student learn the perspective of environmental sociology, which captures the mechanisms and the structure of environmental problems and derives the direction of problem solving.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 環境への着目

環境問題の特徴とその変化を踏まえて、環境社会学を考える。

【3】: 「歴史」への視点

『公害・労災・職業病年表』が現代に示唆することは何か。

そこに至る経緯を把握することの意味は何か。

【4】: 被害と加害への視点

被害と加害のメカニズムを総体として把握する(加害ー被害)論について考える。

【5】: 「公共性」とは何か

開発と保護をめぐって、何が全体の利益とされてきたのか。

その利益は歴史の審判に耐えうるか。

【6】: 応用①

水俣病、企業の公共性、国の規制権限、学問の独立性・自立性、科学技術社会論など。

【7】: 応用②

尾瀬、自然保護、山岳観光道路、オーバーツーリズムなど。

【8】: 生きものと暮らし

生業、マイナー・サブシステム、資源保全、獣害、音への感性などから生きものと暮らしの関係とその変化を捉える。

【9】: かかわりとなわばり

場所や自然資源の占有・所有のルール、自治について考える。

【10】:歴史的環境の保全

なにが歴史的環境であるのか。三つの「村」における保護・保全のかたちを考える。

【11】:風土と景観

地名、在地リスク回避、入浜権、ソフトレジスタンス、自然の本源的優越などの概念から考える。

【12】:伝統と生活文化

伝統や地域の歴史はなぜ守る対象になるのか。

【13】:なぜ戦争は最大の環境破壊か

リスクとしての基地をめぐる諸問題を考える。

【14】:まとめとディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、レジュメ作成等。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と報告:50% ディスカッション:50%

修士課程と博士課程の学生が受講できるが、博士課程の学生には高い水準の理解を求める。

テキスト / Textbooks

ガイダンス、各回ごとに指示する。

参考文献 / Readings

飯島伸子 『公害・労災・職業病年表』 すいれん舎 2007 9784903763125

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会学的な思考能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

メディア社会学

Sociology of Media

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「メディア社会学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

メディア・オーディエンス論の研究動向について理解するとともに、自己の研究へ応用する視点をつかむ。

Students will understand research trends in media audience theory and gain a perspective on how to apply this to their own research.

授業の内容 / Course Contents

近年、テクノロジーの発達により、メディアは高度に発展し、人々の生活の多方面に深く関わっている。こうした中で、メディア・オーディエンスについて、これまでどのような研究がなされてきたのであろうか。この授業では、メディア・オーディエンス研究についてのこれまでの研究成果を俯瞰し、そこで用いられた基本的な概念の習得を目指す。

本授業では、テキストの精読を通して、こうしたメディア・オーディエンス論の研究動向について学ぶ。このことによって、履修者は、これから行う自分の研究の基礎を築いてほしい。

In recent years, media has developed rapidly thanks to technological progress, spreading its influence in various aspects of people's lives. What researches have been conducted on media audience amidst these phenomena? In this class, students will gain bird-eye view of media audience research findings until now. Students will acquire basic concepts used in these studies.

In this class, students will learn about media audience research trends by reading textbooks. Through these, students will build the foundation of the future researches.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(1)

【3】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(2)

【4】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(3)

【5】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(4)

【6】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(5)

【7】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(6)

【8】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(7)

【9】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(8)

【10】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(9)

【11】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(10)

【12】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(11)

【13】: 『メディア・オーディエンスの社会心理学』(12)

【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の発表:60% 授業内の討論:40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

李光鎬・渋谷明子編 『メディア・オーディエンスの社会心理学 改訂版』 ミネルヴァ書房 2021 9784788517219

参考文献 / Readings**その他 / Others**

授業では、毎回レポーターを決め、テキストの内容を深く理解するとともに、参加者の議論によって、発展的検討を行う。

文化人類学

Cultural Anthropology
文化人類学理論史研究

木村 自 (KIMURA MIZUKA)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX115
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「文化人類学」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

1860年代から2000年代までに至る文化人類学の理論史を概観し、人類学理論のパラダイム転換の裏にある思想・視点を明らかにする。

前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

To clarify and understand the overview of the theoretical history of cultural anthropology from the 1860s to the 2000s.

授業の内容 / Course Contents

19世紀後半にヨーロッパ・アメリカで生まれた人類学は、他者を理解することをめぐって数々のパラダイム転換を遂げた。そのパラダイム転換の歴史的軌跡は、進歩史観と博物学的研究を中心とした1860/70年代から1920/30年代までの第1期、フィールドワークに基づきコミュニティ内部の有機的統合を模索した1920/30年代から1970/80年代までの第2期、民族誌記述の政治性を批判し、文化的統合性よりも流動性と生成を焦点化した1980/90年代の第3期、さらに民族誌批判を乗り越えて新たな人類学的視点を提示しようとする1990年代以降の第4期に大きく分けることができる。本講義では、この4期の歴史展開における思想的背景をあぶりだし、今日の文化人類学の歴史的位置づけを明らかにする。(授業計画は、授業の進捗に応じて変更することがあります)

Born in Europe and the United States in the late 19th century, anthropology has undergone several paradigm-shifts. In this lecture, the historical trajectory of the paradigm-shifts divided into four periods; the first period from the 1860s / 70s to the 1920s / 30s, the heyday of the evolutionism and the natural history, the second period from the 1920s / 30s to the 1970s / 80s, which sought the organic integration based on community fieldworks. the se1920 / which sought organic integration within the community based on fieldwork. The third period of the 1980s / 90s, which criticized the politics of ethnographic writing and focused on fluidity and generation rather than cultural integrity. The fourth period since the 1990s, trying to overcome criticism of writing culture shock and present a new anthropological perspective. In this lecture, we will discuss the ideological background of the historical development of these four periods. In addition, it also explores the historical location of cultural anthropology today. (The plan will be changed depending on the course progression.)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション——講義の構造
- 【2】: 一卵性双生児としての社会学と人類学——「文明」と「未開」への問
- 【3】: 文化的多様性と近代性を結びつける——人類学における進化
- 【4】: 人類学における「機能」という考え方(1)——共同体研究
- 【5】: 人類学における「機能」という考え方(2)——「科学」としての人類学
- 【6】: 人類学における「構造」概念(1)——主体の消滅
- 【7】: 人類学における「構造」概念(2)——構造から実践へ

- 【8】: 人類学における「文化」の焦点化——アメリカ人類学と文化の解釈
- 【9】: 人類学における政治と詩——ライティングカルチャーショック
- 【10】: 「私」の民族誌——実験的民族誌
- 【11】: 「世界」のなかの民族誌——世界システムと多現場民族誌
- 【12】: ラトゥールとアクターネットワーク理論
- 【13】: 「存在論的転換」をとりあえず理解する
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で指示する参考文献に目を通すこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:100%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

とくになし。

参考文献 / Readings

- 竹沢尚一郎 『人類学的思考の歴史』 世界思想社 2007 9784790712695
 太田好信・浜本満 『メイキング文化人類学』 世界思想社 2005 4790711021
 ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953
 松村 圭一郎他 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331
 前川啓治他 『21世紀の文化人類学』 新曜社 2018 9784788515826
 その他の参考文献については、各回の授業において指示する。

カルチュラルスタディーズ

Cultural Studies

文化に対する批判的研究と、実践のために

小泉 元宏 (KOIZUMI MOTOHIRO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX116
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「カルチュラルスタディーズ」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

文化研究(カルチュラルスタディーズ)に関する理論的研究と文化実践を、大学院レベルでおこなっていくための視座を獲得しながら、自身の研究テーマに関する調査や、学術論文・博士論文執筆、学会等での研究発表に生かしていくこと。 This course provides an opportunity to study theories and have practical experiences of Cultural Studies at postgraduate level. Participants are expected to make use of the course content in their own research, academic and doctoral thesis writing and conference presentations.

授業の内容 / Course Contents

近現代における諸文化と、社会的諸主体・権力との関係性などに関する文化批評理論などの理論研究を行うとともに、随時、フィールドワークやグループワークなどを行う。また、各自の問題意識やテーマに基づいた研究発表およびディスカッションなども実施する。

This course consists of:

- reading bibliographical materials of critical theories and cultural sociology
- analysing texts and discussions
- field research, practical projects
- research presentations

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション、研究紹介
- [2]: フィールドワーク準備
- [3]: 文献講読・ディスカッション
- [4]: 文献講読・ディスカッション
- [5]: 文献講読・ディスカッション
- [6]: フィールドワーク/プロジェクト
- [7]: 文献講読・ディスカッション
- [8]: 文献講読・ディスカッション
- [9]: 文献講読・ディスカッション
- [10]: フィールドワーク/プロジェクト
- [11]: 研究発表、グループメンタリング
- [12]: 研究発表、グループメンタリング
- [13]: 研究発表、グループメンタリング
- [14]: グループ・プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワー等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、ならびにグループプレゼンテーションや研究発表では、事前の発表準備等が必須となる。また授業中に取り扱う理論や実践活動に関して、自ら調査を行うことで、授業内容への理解を深めること。さらに、授業内容を学術論文や博士論文執筆、あるいはそれらに向けた調査研究や学会発表などに積極的に生かしながら、自身の研究調査課題を発展・深化させていくことを期待したい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加(文献講読・グループワーク・研究発表・ディスカッションへの参加ほか):100%

各評価にあたっては、前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

履修者の関心に合わせ、指定する。なお英語文献が含まれることもある。

参考文献 / Readings

都度、紹介する。

科学技術社会論

Science and Technology Studies

綾部 広則 (AYABE HIRONORI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX117
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「科学技術社会論」と合同授業。		

授業の目標 / Course Objectives

自身の研究テーマと関連づけながら科学技術社会論の基本的な考え方を学ぶ。
前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

The purpose of this lecture is to learn the basic concepts of STS (Science, Technology and Society/Science and Technology Studies) in relation to your own research theme.

授業の内容 / Course Contents

科学技術と社会に関する講義と基本文献の講読を行う。受講者数にもよるが、最初の数回程度は、科学技術社会論の概略を講義し、その上で、残りを基本文献の輪読にあてる予定(文献についてはオリエンテーションの折に相談して決める)。なお、科学技術と銘打っているが、自然科学・工学に関する予備知識は必要としないので、気楽に受講してください。

The course consist of lectures and readings of basic literature on STS. Depending on the number of students, the first few lectures will be an overview of STS. Then, basic literature on STS will be read in the remaining few sessions. (assignments will be decided upon at the orientation). Although the course is called "science and technology," no prior knowledge of natural science or engineering is required.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:科学技術社会論とは何か(1)
- 【3】:科学技術社会論とは何か(2)
- 【4】:科学技術社会論とは何か(3)
- 【5】:科学技術社会論とは何か(4)
- 【6】:科学技術社会論とは何か(5)
- 【7】:文献講読(1)
- 【8】:文献講読(2)
- 【9】:文献講読(3)
- 【10】:文献講読(4)
- 【11】:文献講読(5)
- 【12】:文献講読(6)
- 【13】:文献講読(7)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

その回で扱う文献について事前に熟読し、論点をまとめておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの貢献度:50% 割り当てられた文献に関する報告:50%

いずれの項目についても博士前期課程よりも高い達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

塚原東吾他編著 『よくわかる現代科学技術史・STS』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154

調査計画法

Research Design

量的調査と質的調査による混合アプローチの可能性

石田 賢示 (ISHIDA KENJI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX118
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「調査計画法」と合同授業。 他研究科生履修不可。		

授業の目標 / Course Objectives

社会調査を実施する際の基本的な事項を理解し、実査に活用できるようになる。

本授業の履修を通して、研究論文執筆において自身の仮説を検証するにあたり、適切な調査を実施し、収集したデータにもとづいて、エビデンスにもとづく科学的な議論ができるようになる。

The purpose of this class is to provide students with an understanding of the basics of social research so that they can apply them in actual research.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の基本的な考え方及び各種調査手法の特徴を学んだうえで、リサーチクエスションの立て方や仮説の構築、調査の企画・設計、データの収集・整理・分析、調査結果の報告に至る方法を取得する。あわせて調査倫理についても学ぶ。既存の理論や先行研究を考慮した上で適切な調査を企画・実施できるようになることを目標とする。さらに、量的調査と質的調査を統合した研究計画について学ぶ。

After learning the basic concepts of social research and the characteristics of various research methods, students will acquire methods for setting research questions, constructing hypotheses, planning and designing surveys, collecting, organizing, and analyzing data, and reporting survey results. Students will also learn about research ethics. The goal is for students to be able to plan and conduct appropriate surveys, taking into account existing theories and previous research. In addition, students will learn how to design a research plan that integrates quantitative and qualitative research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:社会調査の種類
- 【3】:社会学における理論と検証
- 【4】:社会調査の倫理と今日的課題
- 【5】:量的調査と質的調査の混合アプローチ
- 【6】:調査計画(1):問題関心と先行研究レビュー
- 【7】:調査計画(2):リサーチクエスションと仮説構築
- 【8】:調査票調査(1):調査票の設計とワーディング
- 【9】:調査票調査(2):調査対象とサンプリング
- 【10】:調査票調査(3):データの収集とコーディング・クリーニング
- 【11】:調査票調査(4):データ分析と結果の解釈
- 【12】:ヒアリング調査(1):調査項目の整理、対象者の選定と関係形成

【13】:ヒアリング調査(2):データ収集と分析結果の整理

【14】:まとめ:調査票調査とヒアリング調査の統合的検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ 量的・質的調査を問わず、自身の研究関心に関連する先行研究を多数読んでおくこと。
- ・ 授業全体をとおして、自身の研究計画にかんする実習課題が出される。授業時間内で完結しない分は、授業時間外に作業を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内提出物:40% 講義への参加度:30% 最終レポート割合::30%

全ての評価方法において、博士課程前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

森岡清志編『ガイドブック社会調査第2版』日本評論社 2007 9784535582460

佐藤郁哉『社会調査の考え方 上』東京大学出版会 2015 9784130520263

佐藤郁哉『社会調査の考え方 下』東京大学出版会 2015 9784130520270

松本渉『社会調査の方法論』丸善出版 2021 9784621306314

盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣 2004 9784641183056

轟亮杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第4版]:2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 2021

9784589041418

参考文献は授業時に提示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インターネットにつながるノートPCを用意してください。

その他 / Others

学部レベルの社会調査法や社会統計学の知識(クロス集計や平均値の比較、分析結果のグラフ作成など)がある事を前提とする。それらについては、各自が自主的に習得しておくこと。

授業は講師作成のスライド資料に沿って進めるが、一部演習を伴う。

詳細は初回授業時に説明するため、履修希望者は必ず出席すること。

量的分析法

Statistical Analysis
中級多変量解析

三輪 哲 (MIWA SATOSHI)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX119
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「量的分析法」と合同授業。 他研究科生履修不可。		

授業の目標 / Course Objectives

計量社会学での応用で活用される、中級レベルの多変量解析技法を学ぶ。
前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

To Learn intermediate-level multivariate analysis techniques used in quantitative sociology.

授業の内容 / Course Contents

社会統計学や多変量解析の基礎を学んでいる事を前提に、それらの手法、とりわけ中級レベルのモデルについて、学術論文を理解することや、適用して自身の論文を執筆するための知識・技能を身に付ける事を目的とする。社会学的な立場に基づいて、データの収集やハンドリングから、解析そして解釈までを学ぶ。統計ソフトウェア SPSS を使用した実習もおこなう。

Assuming that graduate students have learned the basics of social statistics and multivariate analysis, you will need the knowledge and knowledge to understand academic papers and apply those methods, especially intermediate-level models, to write your own papers. The purpose is to acquire skills. Learn everything from data collection and handling to analysis and interpretation based on a sociological standpoint. Students will also practice using the statistical software SPSS.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 量的分析の応用のために
- 【2】: 多項ロジットと順序ロジット
- 【3】: ログリニア分析(1)
- 【4】: ログリニア分析(2)
- 【5】: 生存時間分析(1)
- 【6】: 生存時間分析(2)
- 【7】: マルチレベル分析(1)
- 【8】: マルチレベル分析(2)
- 【9】: 探索的因子分析と確証的因子分析
- 【10】: 構造方程式モデリング(1)
- 【11】: 構造方程式モデリング(2)
- 【12】: 潜在クラス分析(1)
- 【13】: 潜在クラス分析(2)
- 【14】: 傾向スコアによる因果推論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワー等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト該当箇所の予習と、前回内容に基づく課題による復習をすることが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:36% 課題:39% 最終レポート割合::25%

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

三輪哲・林雄亮 『SPSSによる応用多変量解析』 オーム社 2014 4274050114

参考文献 / Readings

康永秀生ほか 『できる! 傾向スコア分析: SPSS・Stata・R を用いた必勝マニュアル』 金原出版 2017 4307004841

質的分析法

Qualitative Research

小林 多寿子 (KOBAYASHI TAZUKO)

科目設置学部	社会学研究科		
開講年度	2025	科目コード等	SX120
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SOC7010
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	前期課程「質的分析法」と合同授業。 他研究科生履修不可。		

授業の目標 / Course Objectives

質的調査研究の系譜をたどり、社会学における質的調査を概観的に把握したうえで、質的調査の方法や分析について具体的な事例をとおして学び、質的調査研究の基礎力と実践力を身につけることをめざす。自らの研究テーマに引き付けて、質的分析法を応用したリサーチデザインする力を培う。

Students will trace qualitative researches to understand overall qualitative sociology. To acquire basic and practical qualitative research skills, students will learn its methods and analyses through specific case studies.

授業の内容 / Course Contents

社会調査法における質的研究に焦点を合わせ、質的研究の系譜をたどり、近年の質的研究成果を概観しながら、質的研究の事例をとおして多様な質的方法の実際について学ぶ。フィールドワークから質的データの収集、分析、解釈、論文の作成に至るまでの社会調査の全過程を、さまざまな文献をもとに検討・討議する。昨今は、社会調査において調査倫理が不可欠となっているので、調査協力者と調査者の関係や当事者研究などの可能性についても検討する。ライフストーリー調査の方法論を基礎に、フィールドワークの方法、インタビュー法、ナラティブ論、エスノグラフィの書き方などが検討、考察の焦点となる。

Students will focus on society sociological research, trace qualitative researches, and study recent qualitative research findings. They will learn various qualitative methods through these cases. Based on various literatures, students will discuss social research processes, including collecting, analyzing, interpreting, and writing papers on field works' qualitative data. Recently research ethic has become essential in social research, so students will also discuss possibilities of researching party involved and relationships between researcher and research collaborators. Based on life story research methods, students will focus on discussing and analyzing various methods, including field work, interview, narrative theory, and ethnography writing.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:授業の進め方
- 【2】:質的データとは何か:個人記録、文書資料、新聞雑誌記事、音声、映像など
- 【3】:質的調査の系譜:社会学における質的調査への道
- 【4】:質的調査法の種類:ドキュメント分析、ライフヒストリー/ライフストーリー法、参与観察など
- 【5】:質的調査の技法:フィールドワークの方法
- 【6】:質的調査の技法:多様なインタビュー法—相互行為としてのインタビュー
- 【7】:質的調査の技法:「人生」へのアプローチ—ライフヒストリー/ライフストーリーの考え方
- 【8】:質的調査の技法:アーカイブ調査とアーカイブ資料の可能性
- 【9】:質的データの分析・解釈:フィールドノートとトランスクリプト
- 【10】:質的データの分析・解釈:語りの社会的・文化的文脈

- 【11】: 質的データの分析・解釈: 「分厚い記述」と生活世界へのまなざし
- 【12】: 調査実践と調査倫理の諸問題
- 【13】: 受講生による調査計画と調査方法: リサーチデザインと成果の呈示
- 【14】: 全体のふりかえりと質的調査の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

基礎的な関連文献を読むこと、各自の研究テーマを深めること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

小林多寿子編 『ライフストーリー・ガイドブック』 嵯峨野書院 2010 9784782305096

参考文献 / Readings